

町田市基本構想・基本計画

まちだ未来づくりビジョン2040

Machida Mirai-zukuri Vision 2040

まちだ未来づくりビジョン2040



市長あいさつ

町田市は、2022年度から新たな基本構想・基本計画として「まちだ未来づくりビジョン2040」をスタートさせます。基本構想部分は18年ぶりの改定、基本計画部分は10年ぶり、かつ、市制施行以来初めて市議会の議決を経て策定しました。

少子高齢化の進行や人口減少社会の到来に加え、デジタル化の進展など、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。また、大規模な自然災害の発生や新型コロナウイルス感染症のような脅威が今後も起こるかもしれません。先行きが不透明なこのような時代にこそ、みんなで目指していく将来の目標が必要であり、それが「まちだ未来づくりビジョン2040」です。

策定にあたっては、みんなの想いを集めてつくり上げる、ということは何よりも大切にしました。幅広くご意見を伺う機会を設け、多くの方から“まちだの未来”に向けた想いを丁寧に集めました。それぞれに生き方の違う人が、人生のどの段階においても輝いていられるよう、また、みんなが「自分ごと」として受け止められるよう、政策の柱をライフステージごとに設けています。さらに、夢を夢で終わらせないために、町田市としてどのように市民の皆様を支えていくか、そのあり方もしっかりと記しています。

まちづくりは、暮らす人、働く人、訪れる人など様々な「人」が主役です。誰もが夢を持ち、幸せを感じることができるまち、「なんだ かんた まちだ」と思えるまちを実現します。市職員一丸となることはもちろん、市民、地域団体、事業者の皆様と連携・協働し、本ビジョンの推進に努めていきます。今後、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、長期計画審議会委員及び市議会議員の皆様をはじめ、タウンミーティングやワークショップ、パブリックコメントなどでご意見やご提案をいただきました多くの皆様から感謝申し上げます。

2022年3月

町田市長 石阪丈一



まちだ未来づくりビジョン2040

目次

<はじめに>

第I章 まちだ未来づくりビジョン2040がはじまります

1 策定の趣旨	8
2 位置付け	8
3 構成	9
4 2040なりたい未来の構成	10
5 2040なりたい未来の策定過程	11

<基本構想編>

第II章 2040なりたい未来

1 2040年の町田市のイメージ	14
2 将来人口	15
3 なりたいまちの姿とまちづくりの方向性	16
4 行政経営の姿と行政経営の方向性	22

<策定の背景>

第III章 まちだ未来づくりビジョン2040策定の背景

■ 町田市って...	26
1 町田市はこんなまちです	28
2 社会経済状況の変化	38

<基本計画編>

第IV章 まちづくり基本目標と経営基本方針

1 計画策定の基本的な考え方	44
2 計画期間と想定人口	44
3 なりたいまちの姿の実現に向けた課題	45
4 行政経営の姿の実現に向けた課題	46
5 財政収支見通し	48
6 計画体系	50
7 持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) の実現	52

第V章 まちづくり基本目標

■ ページの構成	56
政策1 赤ちゃんに選ばれるまちになる	58
政策2 未来を生きる力を育み合うまちになる	64
政策3 自分らしい場所・時間を持てるまちになる	74
政策4 いくつになっても自分の楽しみが見つかるまちになる	80
政策5 人生の豊かさを実感できるまちになる	86
政策6 つながり力を力にするまちになる	92
政策7 ありのまま自分を表現できるまちになる	98
政策8 思わず歩きたくなるまちになる	104
政策9 みんなが安心できる強いまちになる	112

第VI章 経営基本方針

■ ページの構成	122
基本方針1 共創で新たな価値を創造する	123
基本方針2 対話を通して市役所能力を高める	127
基本方針3 次世代につなぐ財政基盤を確立する	131

第VII章 横断的なテーマ

■ 「2040なりたい未来」を実現するための横断的なテーマ	136
1 人口減少・少子化対策に向けて ～第2期町田市まち・ひと・しごと創生総合戦略～	138
2 減災・防災に向けて ～町田市国土強靱化地域計画～	140
3 デジタル化による行政サービス改革に向けて ～町田市デジタル化総合戦略～	141

資料編

1 各施策・各方針とSDGsとの関係	144
2 指標一覧	146
3 策定方針	149
4 策定体制	150
5 策定経過	151
6 長期計画審議会	152
7 市民参加	157
8 庁内検討	162
9 関連条例	165
10 用語解説	166

(冊子文中の※について用語の解説文を掲載しています。)



<はじめに>

第 1 章

まちだ未来づくりビジョン2040が
はじまります

1

策定の趣旨

日本全体の人口は、2008年の1億2,808万人をピークに減少局面に移行し、町田市の人口も1958年の市制施行以来、一貫して増加を続けていたものが、2018年に初めて減少に転じました。

2040年には団塊ジュニア世代*が65歳以上の高齢者となり、2004年に約16%だった高齢者人口の割合は約36%¹にまで増加することが見込まれています。対して、約70%だった生産年齢人口*の割合は約54%にまで減少するという推計が出ています。

一方、近年のAI*(人工知能)やICT*(情報通信技術)などの急速な進展は、より多様で柔軟な働き方ができる社会を実現させていっています。また、世の中の消費動向が“モノ”から“コト”へと転換、さらには時間や目的の共有を重視する方向へシフトするなど、私たちの生活は変革の時を迎えています。

町田市では、このような社会経済状況や人々のライフスタイルの変化を大きなチャンスと捉え、誰もが夢を描くことができ、幸せを感じられる未来をつくるために、「まちだ未来づくりビジョン2040」を策定します。

2

位置付け

「まちだ未来づくりビジョン2040」は、市民、地域団体、事業者など町田市に関わるすべての人々が、共に実現を目指していくビジョンとし、その実現に協力していただける人から新たに関わりを持っていただける人まで、多くの人を惹きつける魅力的なビジョンとして策定します。

そして、町田市におけるまちづくりの基本指針を示すとともに、市政運営の基本となるビジョンとして位置付けます。

¹ P.38 グラフ「町田市における将来人口の推計結果」を参照

3

構成

(1)構成

「まちだ未来づくりビジョン2040」は、基本構想部分を担う「2040になりたい未来」と基本計画部分を担う「まちづくり基本目標」及び「経営基本方針」で構成されます。

また、ビジョンの実現に向けて、具体的な事業と取り組みを示す実行計画を策定します。

①2040になりたい未来

まちづくりの方向性、行政経営の方向性を明らかにし、方向性に沿って進んでいった未来の姿を「なりたいまちの姿」(都市像)、「行政経営の姿」(経営像)として掲げます。

②まちづくり基本目標

「2040になりたい未来」で掲げた、なりたいまちの姿を実現するための目標を政策・施策として体系的に示します。

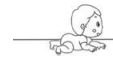
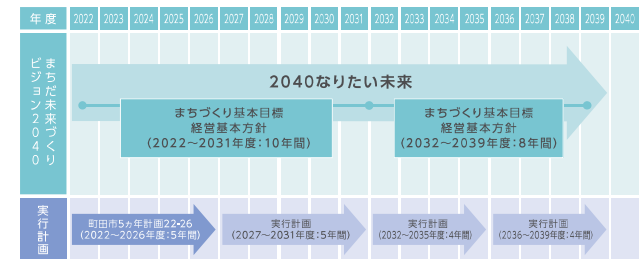
③経営基本方針

「2040になりたい未来」で掲げた、行政経営の姿を実現するための方針を体系的に示し、「まちづくり基本目標」を支えます。



(2)期間

基本構想部分を担う「2040になりたい未来」は、2022年度から2039年度までの18年間、基本計画部分を担う「まちづくり基本目標」及び「経営基本方針」は、2022年度から2031年度までの10年間と、2032年度から2039年度までの8年間とします。



4

2040なりたい未来の構成

これまでの町田市のまちづくりは、暮らす人、働く人、訪れる人など、多くの「人」によって支えられてきました。そして、それはこれからも変わらないことであり、多様であることが当たり前の社会においては、一人ひとり生き方の違う「人」が、それぞれのライフステージにおいて活躍できる環境があることがより重要になってきます。

このことを踏まえ、「2040なりたい未来」では、誰もが夢を持ち、その夢を実現できるまち、一人ひとりが輝けるまちとなるため、町田市のまちづくりの方向性となりたいまちの姿、そして、行政経営の方向性と行政経営の姿を明らかにするとともに、2040年の未来の町田市のイメージをキャッチコピーとして定めま

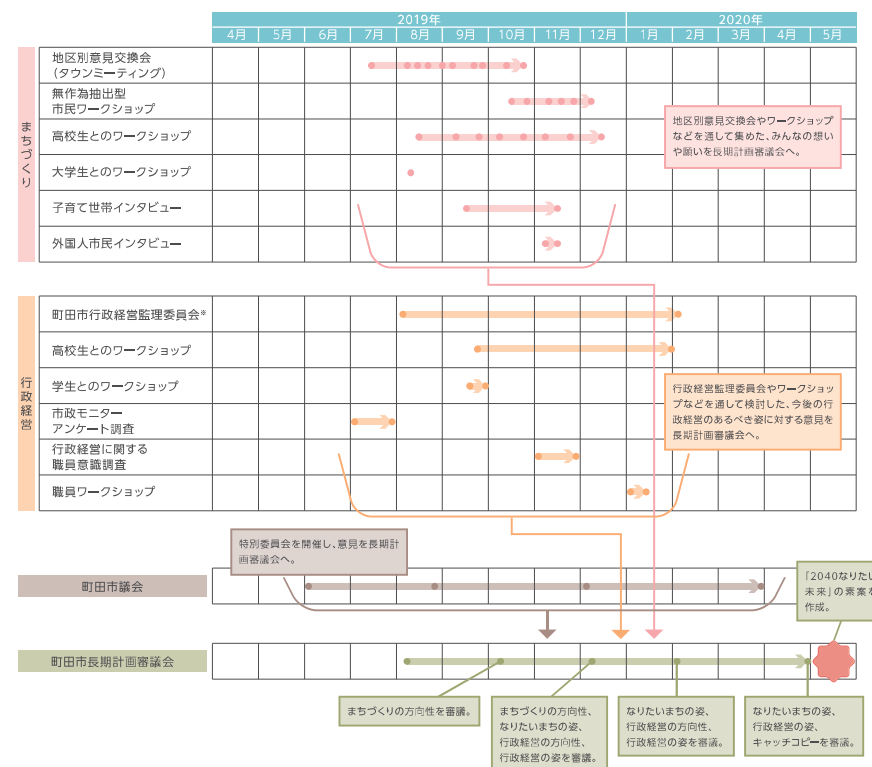


5

2040なりたい未来の策定過程

(1)策定スケジュール

「2040なりたい未来」の策定にあたっては、地区別意見交換会(タウンミーティング)・ワークショップなどでの意見、町田市議会や町田市行政経営監視委員会からの意見を踏まえ、町田市長期計画審議会で素案を取りまとめました。



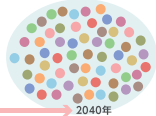
(2) 検討の過程

まちづくりの方向性やなりたいまちの姿、行政経営の方向性や行政経営の姿については、以下のような過程を経て作成しました。

【まちづくり】

1 町田市のおよい点・悪い点・改善点や2040年までに必要な環境などについて意見交換

みんなの想い・願い



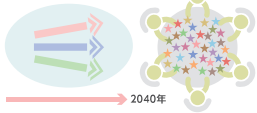
〈検討の場〉

- ① 地区別意見交換会 (タウンミーティング)
- ② 大学生とのワークショップ
- ③ 高校生とのワークショップ
- ④ 子育て世帯インタビュー
- ⑤ 外国人市民インタビュー
- ⑥ 市民意識調査

2040年の未来になってほしい町田市の姿をつくるため、地域にお住まいの皆さんとの意見交換会などを開催しました。

2 まちづくりの方向性を審議

まちづくりの方向性



〈検討の場〉

- ① 第2回長期計画審議会
- ② 第3回長期計画審議会

1でいただいた意見を基に、まちづくりの方向性を作成しました。

3 なりたいまちの姿を検討・審議

なりたいまちの姿



〈検討の場〉

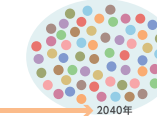
- ① 高校生とのワークショップ
- ② 無作為抽出型市民ワークショップ
- ③ 第3回長期計画審議会
- ④ 第4回長期計画審議会

2でまとめた「まちづくりの方向性」を基に、2040年に向けた町田市のなりたいまちの姿を作成しました。

【行政経営】

1 町田市を取り巻く行政経営の主な現状と課題や2040年にかけて起こる変化・課題を整理

今後の行政経営のあるべき姿



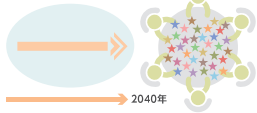
〈検討の場〉

- ① 行政経営監理委員会
- ② 学生とのワークショップ
- ③ 市政モニターアンケート調査
- ④ 行政経営に関する職員意識調査
- ⑤ 職員ワークショップ

2040年を見据えた今後の行政経営について有識者などから3つの重要な視点をいただくとともに、学生や市政モニターの方々から意見をいただきました。

2 行政経営の方向性を審議

行政経営の方向性



〈検討の場〉

- ① 第3回長期計画審議会
- ② 第4回長期計画審議会

1でまとめた「2040年を見据えた今後の行政経営に対する3つの重要な視点」を基に、行政経営の方向性を作成しました。

3 行政経営の姿を検討・審議

行政経営の姿



〈検討の場〉

- ① 高校生とのワークショップ
- ② 無作為抽出型市民ワークショップ
- ③ 職員ワークショップ
- ④ 第3回長期計画審議会
- ⑤ 第4回長期計画審議会
- ⑥ 第5回長期計画審議会

2でまとめた「行政経営の方向性」を基に、2040年に向けた町田市の行政経営の姿を作成しました。

4 2040年の町田市のイメージを作成



〈検討の場〉

- ① 第5回長期計画審議会
- ② キャッチコピーの市民投票

まちづくりの方向性となりたいまちの姿、行政経営の方向性と行政経営の姿から表される、未来の町田市のイメージをキャッチコピーとして作成しました。

※ は各段階における主な検討対象

<基本構想編>

第II章

2040なりたい未来

1

2040年の町田市のイメージ

町田市は、2040年に向けたまちづくりの方向性となりたいまちの姿、行政経営の方向性と行政経営の姿をそれぞれ明らかにし、それらからイメージされる未来の町田市を一言で表すキャッチコピーを以下のとおり決めました。

なんだ かんだ まちだ

「なんだかんだ言っても、やっぱり町田が一番」、この感覚は、町田で暮らす子どもから高齢者、また、町田を拠点に活動する事業者や団体など、町田市に関わった人の多くが抱くものです。

自分や家族が成長していく場所として、仕事や学び、遊びに励む場所として、一息つく場所として、知らず知らずのうちに町田を選んでいる。

これは、都市と自然のバランスのよさに加え、自由な発想や生き方を受け入れる寛容さを町田というまちが持っているからにほかなりません。

様々な理由で一度は離れたとしても、肩肘張らずに暮らせる環境を求めて、結局は町田に戻ってくるような、そんなみんなに愛されるまち、ほかにはないユニークなまちのイメージを「なんだ かんだ まちだ」というキャッチコピーで表現しています。

2

将来人口

2040年における、町田市の将来人口を40万人と想定し、「2040なりたい未来」の実現に向け、皆さんと一緒にまちづくりを進めます。

2040年の将来人口

40万人

なりたいまちの姿と まちづくりの方向性

◆なりたいまちの姿 1

ここでの成長がカタチになるまち

2040年という未来のまちの中心的な役割を担い、第一線で活躍しているのは、今の子どもたちです。人口減少が進む中、子どもたちがずっと住み続けたいと思えることは、将来にわたり選ばれるまちの重要な要素となります。

子どもの頃の素敵な思い出は大人になっても忘れないものです。町田市は、子どもたちに様々な経験やチャレンジの機会を提供するとともに、自由で柔軟な発想を受け入れる環境を整え、まちへの誇りや愛着の醸成につなげていきます。そして、子どもたちが自分の成長を有形・無形問わず何らかのカタチとして実感し、自身の未来を描いてほしいと願っています。

一方で、周りの大人たちが楽しく暮らしていてこそ子どもたちの健やかな成長があります。親や祖父母はもとより、普段子どもとあまり接点のないような大人たちまでもが互いに協力し合って社会全体で育てている、そういうことが当たり前にできるまちならば、みんなの心に余裕が生まれ、大人だって成長していくことができるはずです。

子どもと共に成長していった先には、ここで暮らしてよかったと誰もが思えるような、それぞれにとっての幸せのカタチが生まれている、町田市はそんなまちになることを目指します。



◆まちづくりの方向性 1

子どもと共に成長し、幸せを感じることができる

人口減少という課題に直面する中、2019年度に行った調査では、町田市の希望出生率は1.91という結果が出ています。これに対して合計特殊出生率*は1.24前後を推移していることから、子どもを産み育てたいと考える人たちの希望がかなっていない状態にあると言えます。

また、将来的にも人口減少が続くことが推計で示されていることから、これから先、町田市は行政サービスを提供している基礎自治体として少子化対策に取り組み、子育ての希望をかなえていく必要があります。

町田市で子どもを産み育てていきたい、また、2人目、3人目をもうけたいと思えるためには、子育てへの不安を払拭できるような、お互いを信頼でき、幸せを感じられる社会であることが求められます。様々な支援があり、ここでなら安心して子どもを産むことができる、子どもが健やかに成長していってくれるという確信が持てる社会であれば、自ずと出生数は増えていきます。

また、子どもの周りに、こうなりたいと思えるような素敵な大人がいることや、自分に関係するまちづくりに参加できること、安全・安心な環境があることなどが、子ども自身がここで育っていききたい、育ってよかったと思えることにつながり、将来の転出抑制、転入促進にもつながっていきます。

人口減少時代にあっては、このように、大人も子どもも未来への希望が持てることを大事にしていく必要があります。

これから先、町田市が持続可能なまちであるためには、少子化という問題を避けては通れません。このことに果敢に取り組む姿勢を示すとともに、町田市で生まれ育った子どもたちに次代の町田市をつくらせてほしいという願いを込め、「まちだ未来づくりビジョン2040」では、「子ども」を起点に、まちづくりの方向性を考えていきます。

子どもにやさしいまちは、高齢者や障がい者など、みんなにやさしいまちです。町田市は2040年に向け、親や祖父母、地域など、子どもを取り巻く様々な主体が、子どもと共に成長し幸せになっていくことができるまちづくりを進めます。



◆なりたいまちの姿 2



わたしの“ココチよさ”がかなうまち

東京の郊外に位置する町田市は、个性的なお店が軒を連ねる中心市街地で買い物や食事を楽しめる一方、市の北部などには豊かな自然があり、アウトドアライフを満喫することもできます。


また、大学や専門学校などが集積した学生のまちという側面や、サッカー、フットサルのホームタウンチーム^{*}を有するスポーツのまちという側面、国際版画美術館をはじめ、史跡や郷土芸能などを大切にす文化・芸術のまちという側面もあります。

そして、小田急線とJR横浜線が交差する交通の結節点であること、新幹線駅に程近いこと、多摩都市モノレールが延伸することなど、移動利便性が高いという利点がテレワークの普及などと相まって、市内に軸足を置きながら仕事ができる環境が整いつつあります。

このように町田市は、仕事、学び、遊びなどの拠点機能を備えており、ひとりでもみんなでも、何か行動を起こすのに最適なまちです。2040年においてもこの特性を土台に、思い思いの暮らしを描くことができる環境を提供していくとともに、昨日よりも今日、今日よりも明日と、生活の質の向上をちょっとずつでも実感できるよう日々成長し続けていきます。

ちょっといいちよどいい暮らしの先には、それぞれにとってのココチよさがかなえられている、町田市はそんなまちになることを目指します。

◆まちづくりの方向性 2



ちょっといい環境の中で、ちよどいい暮らしができる

2040年を見据えたとき、AIやICTに代表されるテクノロジーの更なる発展、一億総活躍社会^{*}の実現に伴う働き手の多様化など、私たちの日々の暮らしや仕事のあり方は今とは大きく異なっていることが予想されます。

時間や場所にとらわれないライフスタイルが前提となったとき、生活の拠点として町田市が選ばれていくためには、人を惹きつける価値を提供できるまちである必要があります。長く都心のベッドタウンとして人々の生活を支えてきた町田市が提供できる価値を考えたとき、それは特別な何かではなく、居心地のよさや気楽さ、ちよどよさを感じられる日常というものなのではないでしょうか。

日常の中にあるといい“ちよどよさ”とは、例えば、働くということにおいてであれば、サテライトオフィス^{*}やコワーキングスペース^{*}など、近くに働ける場所やビジネスパートナーを見つけられる場所がある、どこかへ出向く際は快適に移動できる交通基盤がある、仕事帰りに買い物や食事を楽しめる魅力的なお店があるなど、ちょっといい環境があるということが挙げられるかと思えます。

一方、働き方の変化によってもたらされる仕事以外の時間、言うなれば自分の時間をどのように充実させるかということも非常に重要です。この点では、みどりを身近に感じることができる、各地域で面白いイベントがたくさんある、誰かのために活動する機会を得ることができる、それらへの交通アクセスが充実しているなど、暮らしを豊かにする物事が周りにたくさんあり、また、それを思い立ったときにすぐ実行できる、ちよどよく手に入るということが大事になってきます。

都心から程近く、都市機能と自然環境が共存し、広域交通にも恵まれている町田市は、仕事の時間や自分の時間の過ごし方の選択肢がたくさんあり、それぞれにちよどいい暮らし方を選べるまちです。

2040年に向け、このポテンシャルを更に引き出し、住む人、働く人、学ぶ人、近隣に暮らす人たちまでもがワクワクできる、職住近接に暮らしの楽しさをプラスした生活の拠点となるような、“いいことふくらむ”まちづくりを進めます。

◆なりたいまちの姿 3



国際化の進展に伴う外国人労働者の増加や、新たなテクノロジーを背景とした働き方の自由度の向上などによって、2040年の町田市は、より一層多様な人が集まるまちになっていることが見込まれます。

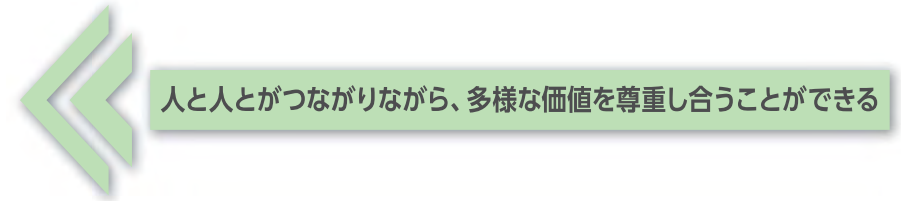
様々な境遇や考え方の人が暮らす中であっては、必要とする人が必要な支え合いの輪に参加できてこそ、地域のつながりの力が発揮されると考えられます。そしてそれは、自ら進んで入っていきたくなるような、温かい寛容に満ちたつながりであることが望まれます。

お互いを尊重し、それぞれがそれぞれにできることを行う、このことを大事にすれば、年齢や障がいの有無などに関わらず誰もが自分の役割や活躍の機会を得られる共生社会を形成することができるのではないのでしょうか。

また、多様な背景を持つ人たちが、自分たちの暮らす地域のことを自分たちで考え決めていくことができれば、これまでなかったような地域ごとの特色が生まれ、居心地がいいと感じられる地域の選択肢が増えることにもつながっていきます。

人と人がつながり、多様な価値を尊重し合える関係性の先には、誰もがホッとできる居場所を地域の中に見つけられている、町田市はそんなまちになることを目指します。

◆まちづくりの方向性 3



私たちの暮らす社会は、子どもから高齢者まで、多くの人を支え合うことで成り立っており、2040年になってもそれは変わらないでしょう。誰もがかつては子どもでもあり、歳を取れば高齢者になります。支える側、支えられる側のどちらにもなり得ることを思えば、自然と支え合いができていよう関係性がいつの時代も求められていると言えます。

一方で、家族のかたちや友人との距離感、地域との付き合い方など、支え合いの土台となる人と人のつながりは、時代と共に変化するものでもあるため、それらを受け入れ、みんながゆるやかにつながることが、まちの魅力の一つとなります。

また、風水害や地震などの大規模災害が発生した際にも、助け合える仲間がいるということは、まちに暮らす人々にとって大きな安心となります。このような点からも、普段は意識していないけれど、いざという時にみんなとつながれるということは、非常に重要であると考えられます。

性別、年齢、国籍などの違いに加え、生き方や信条、住み方の違い、あるいは、地域と積極的に関わっている人、そうでない人など、町田市には様々な人が暮らしています。お互いを認め合い、地域とのつながり方を選びながら、それぞれの持てる力を発揮できる、そんな地域であれば、生涯住み続けたいと思える愛着が生まれるのではないのでしょうか。

さらに、多様な人たちが、多様な考え方の下、地域資源の使い方や安全・安心への取り組みなど、自分たちで必要なことを考えて地域をつくり続けていくことができれば、お互いに学び合い、高め合うことで、地域に化学反応を起こせるとともに、まちへの誇りや責任を持つことにもつながると考えられます。

多様性を認め合うことが当たり前前の時代にあっては、地域にも多様なあり方があって然るべきであり、そこから新たな価値が生まれてくるはずです。

2040年に向け、このように、温かい人と人とのつながりがあり、どこか懐かしいけど新しさも感じられるまちづくりを進めます。

4

行政経営の姿と 行政経営の方向性

◆行政経営の姿



みんなの“なりたい”がかなうまち

人口減少や人口構成の変化、価値観の多様化など、社会構造が大きく変化していく中、行政経営においても、これまでも増して多様な公共サービスを展開していくことが求められています。

また、地震や風水害などの自然災害、感染症の拡大などの危機に対しても、これまで乗り越えてきた経験をいかしながら、新たな発想で市民サービスを持続的に提供していく必要があります。

このため、市民、地域団体、事業者などの様々な担い手と共にまちづくりに取り組むことで、これまでにない新たな価値を生み出し、市民一人ひとりのニーズに適したきめ細やかなサービスを提供していくことが、これからの行政経営にとって大切なことであると考えます。

そこで、町田市の持つ情報をオープン化し、町田市の特性や課題を示していくことで、様々な担い手が、その解決に向けて“投資したくなる”“関与したくなる”仕組みをつくります。

また、テクノロジーを活用し、公共サービスのスマート化を進めていくことで快適で利便性の高いまちを実現していくとともに、町田市の持つ魅力と強みをいかした公共サービスを広く展開していきます。

2040年に向けて、多様な主体と共に、市民一人ひとりに最適な公共サービスを展開していくことで、市民の生活をより豊かなものとし、市民それぞれの“なりたい”をかなえる行政経営を目指します。

◆行政経営の方向性



多様な主体と共に、町田らしい公共サービスを展開していく

町田市の人口は、今後、減少局面に移行していくとともに、団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年頃に高齢者人口がピークを迎えることが見込まれています。

高齢者人口の増加は、医療・介護給付、生活支援などのニーズを高める一方で、人口減少は、日常生活や事業のために必要な担い手を確保することが難しくなるなど、公共サービスの需要と供給の両面において大きな変化をもたらします。

そこで、これまでの行政経営のあり方を改めて見直し、これらの変化に適応したものへとデザインし直す必要があります。

また、AIやIoT*（モノのインターネット）、ロボットなどテクノロジーの進化は目覚ましいものがあります。中でも、新型コロナウイルス感染症*の世界的拡大を受けたりモート化の急速な進展は、人々の働き方に大きな変化をもたらしました。テクノロジーを駆使して様々な工夫を凝らし、これまでの窓口中心の公共サービスのあり方を見直すなど、新しい発展の基礎を築くことができれば、市民の生活を快適で利便性の高いものとしていくことが可能となります。加えて、IoTなどにより集約した様々な情報を分析することで市民ニーズを的確に捉え、必要な人に必要なサービスが必要な分だけ提供できるようになり、地域の課題に効果的に対応していくことが可能となります。

行政経営においても、このようなテクノロジーの取り込みを強力に推進し、市民に上質なサービスを提供していくことが求められていきます。

さらに、市民のライフスタイルや価値観は、今後も複雑化・多様化していくことが予想されます。あらゆる公共サービスを行政だけで提供していくのではなく市民、地域団体、事業者など、まちづくりに関わる様々な主体との連携を深め、これまでにない多様なサービスを生み出すことができれば、市民一人ひとりのニーズに適したきめ細やかなサービスを提供していくことが可能となります。

そのためには、これまで以上にまちづくりに関わる多様な主体が連携し合う仕組みを作り、人や企業の多彩な知恵と行動を結集して地域課題に対応していくことが重要だと考えます。

多様な主体と共に、町田市の持つ魅力や強みをいかしたサービスを持続的かつ安定的に提供していくとともに、社会経済環境の変化を的確に捉え、あらゆる事態においても迅速かつ柔軟に立ち向う行政経営を進めます。



<策定の背景>

第Ⅲ章

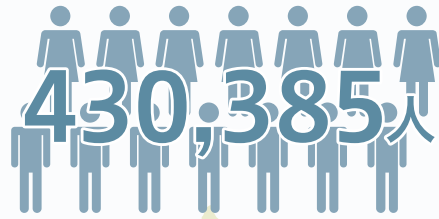
まちだ未来づくりビジョン2040 策定の背景

町田市って...

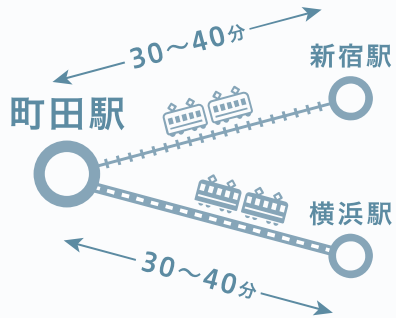
東京都の南の
端っこにあります！



町田市人口 (2022年1月1日時点)



都心、横浜から電車で
アクセスしやすい！



小田急小田原線 1日の平均乗降人員 (2020年度)



JR横浜線 1日の平均乗車人員 (2020年度)



市の木



市の花



市の鳥



年少人口の転入超過数ランキング

(政令指定都市を除く)



町田市は、ユニセフ主唱の「子どもにやさしいまちづくり事業」に参加し、日本ユニセフ協会と共に「日本型モデル」を構築して国内普及の礎を作りました。その結果、日本初となる「子どもにやさしいまち」として承認されました。2019年には、ドイツで開催された「子どもにやさしいまち世界サミット」に町田市が日本から唯一参加しました。

子どもセンター 子どもクラブ数



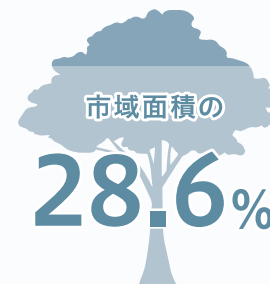
冒険遊び場数



地区協議会 市内全 10地区

市全域に設置されている自治体は、都内では3自治体のみです。「地区協議会」とは、地区の課題解決や魅力発信・向上に取り組むネットワーク組織で、町内会・自治会連合会の地区連合会などの様々な団体が、各地区の特性と資源をいかして主体的に取り組んでいます。

緑地面積 (2020年度)



小売業の 年間商品販売額 (2016年度)



町田市は こんなまちです

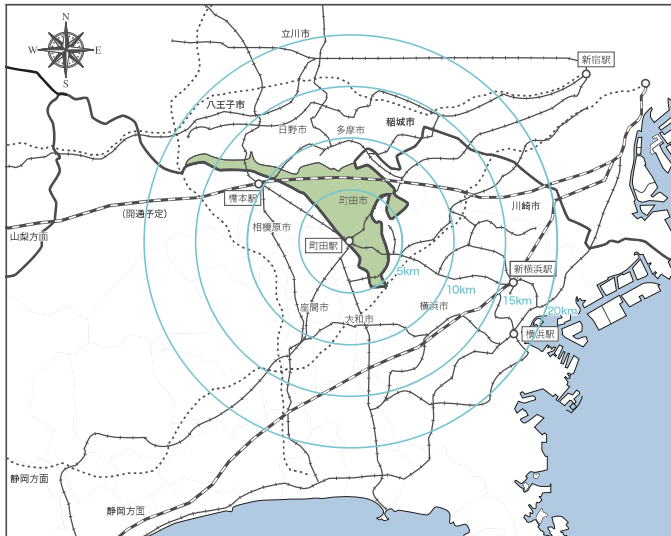
(1)町田市はここにります

- 町田市は、東京都の西南に位置し、都心から西南30~40km、横浜市中心部から西北20~30kmの距離に位置しています。市域は、東西22.3km、南北13.2km、面積71.55km²で、多摩26市で4位の広さです。
- 地形は、多摩丘陵の北部域に位置し、市域の南西側は境川によって区切られています。丘陵域は鶴見川、境川の源流域となっているため、都心近郊にありながら、豊かな自然環境を有しています。

(2)交通の結節点と言われています

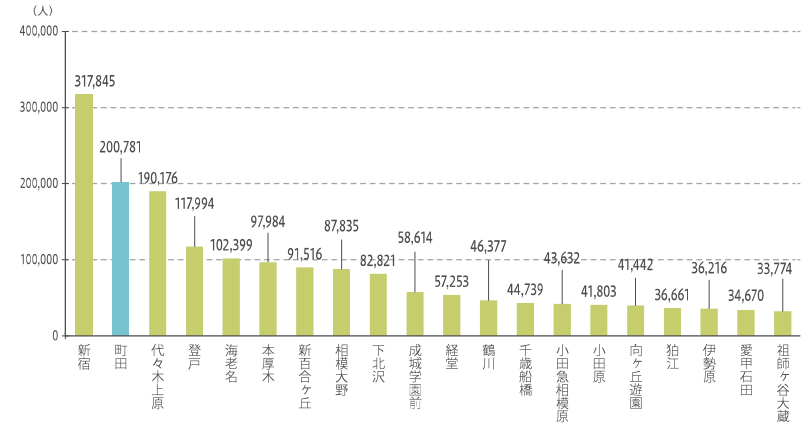
- 市域の主要な交通網のうち、鉄道はJR横浜線、小田急小田原線、東急田園都市線、京王相模原線の4路線が通っています。町田駅から新宿駅、横浜駅は、共に約30~40分程度で結ばれ、広域的な公共交通の利便性に恵まれているものの、どの路線も市域の外縁部を通っているため、市内を移動するための主な公共交通の手段はバスとなっています。
- 幹線道路は、市の南端に東名高速道路の横浜町田インターチェンジがあるほか、国道16号や国道246号といった広域幹線道路へもアクセスしやすい位置にあります。

町田市の広域的な位置

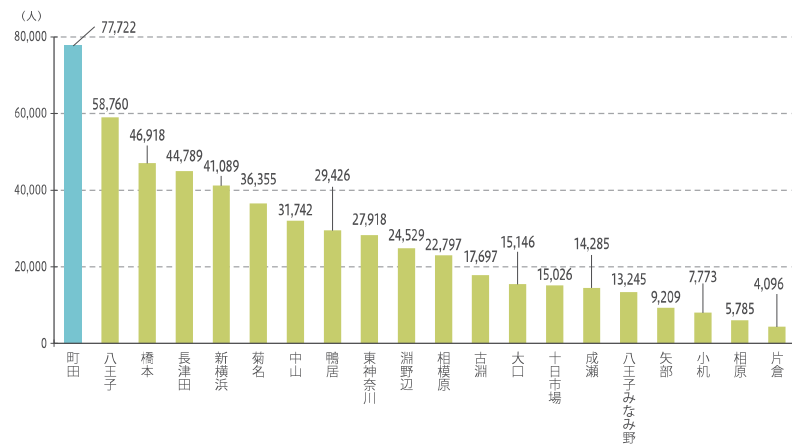


- 小田急小田原線とJR横浜線が交差する町田駅は、1日の平均乗降人員・乗車人員が小田急小田原線では新宿駅に次ぐ第2位、JR横浜線では第1位です。

小田急小田原線の各駅1日平均乗降人員(上位20駅)
出典:小田急電鉄(株)資料(2020年度)



JR横浜線の各駅1日平均乗車人員
出典:東日本旅客鉄道(株)資料(2020年度)



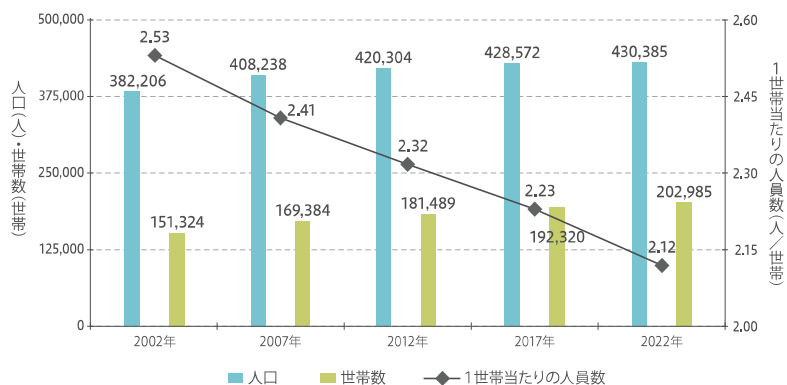


(3)子育て世帯から選ばれています

<人口・世帯数>

- 2022年1月1日時点の人口は43万385人であり、2002年の38万2,206人の約1.13倍となっています。また、世帯数は、20万2,985世帯で、2002年の15万1,324世帯と比べて約1.34倍に増加しています。

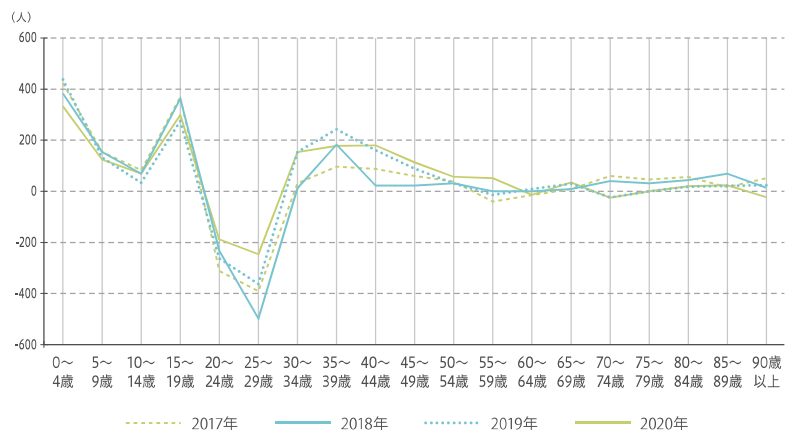
町田市における人口・世帯数・1世帯当たりの人員数の推移
出典:町田市住民基本台帳人口(各年1月1日現在) 注)2017年以降は、外国人人口を含む。



<人口移動>

- 「住民基本台帳人口移動報告」に基づき、2017~2020年における社会増減数の推移をみると、0~19歳及び35~44歳は概ね転入超過*傾向にあります。対して、20~29歳は転出超過が続いています。

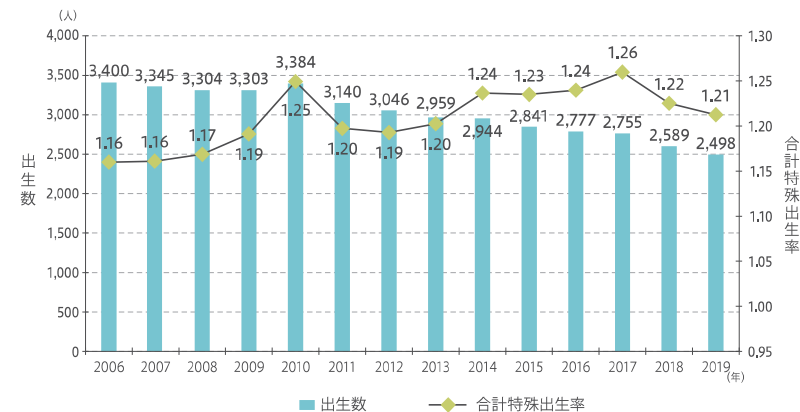
町田市における5歳階級別の社会増減数の推移(全体)
出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告(各年)」 注)日本人人口のみ。



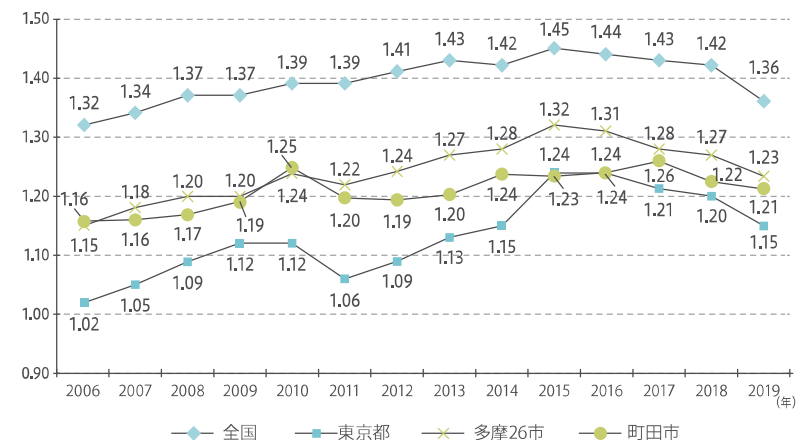
<出生数と合計特殊出生率>

- 町田市における出生数を見ると、2010年までは3,200~3,400人前後を維持してきたものの、2011年以降は年々減少しています。一方、合計特殊出生率は概ね上昇傾向にありましたが、2017年の1.26をピークに減少しています。

町田市における出生数と合計特殊出生率の推移
出典:東京都福祉保健局「人口動態統計」



合計特殊出生率の推移の比較
出典:厚生労働省「人口動態統計」

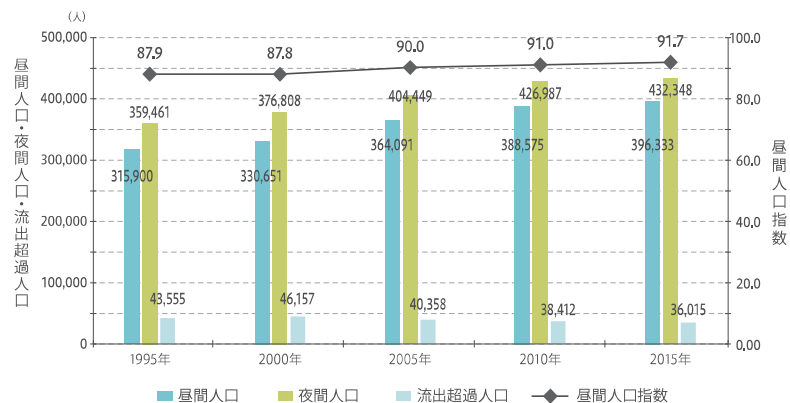




<昼夜間人口>

●昼間人口は1995～2015年まで一貫して夜間人口を下回っており、流出超過の傾向にあります。流出超過人口は1995年の43,555人から2015年の36,015人へ7,540人(17.3%)減少しており、昼間人口指数は1995年の87.9から2015年の91.7へ3.8増加しています。

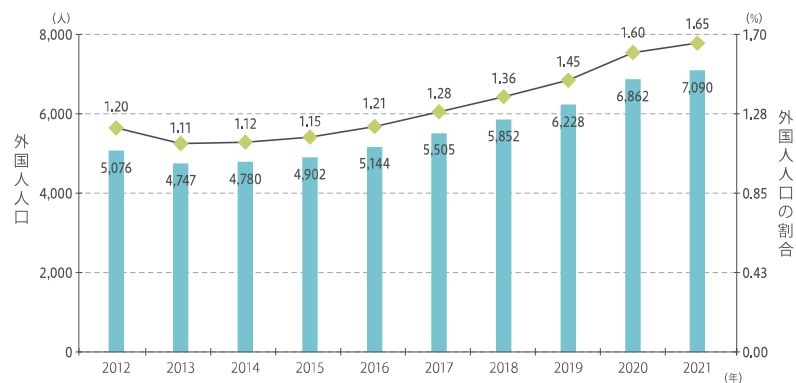
町田市における昼間人口・夜間人口などの推移
出典:総務省「国勢調査(各年10月1日現在)」



<外国人人口>

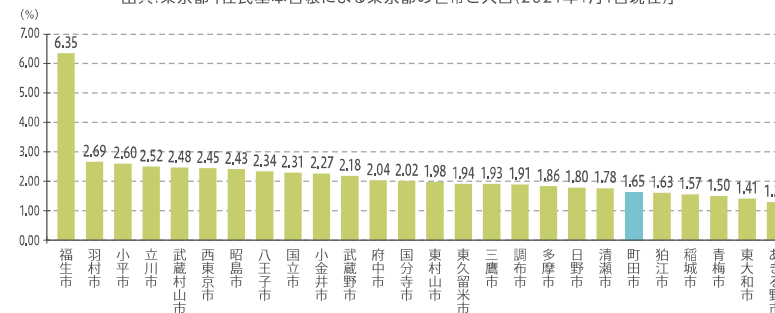
●外国人人口は2013年までは減少傾向で推移してきたものの、その後は増加傾向に転じ、2013年の4,747人から2021年には7,090人へ2,343人(49.4%)増加しています。また、総人口に占める外国人人口の割合は2021年に1.65%となっています。

町田市における外国人人口の推移
出典:町田市統計書(各年1月1日現在)



●外国人人口の割合は、多摩26市で低い方から6番目と相対的に外国人人口の割合が低い水準にあります。

外国人人口の割合の都市間比較
出典:東京都「住民基本台帳による東京都の世帯と人口(2021年1月1日現在)」



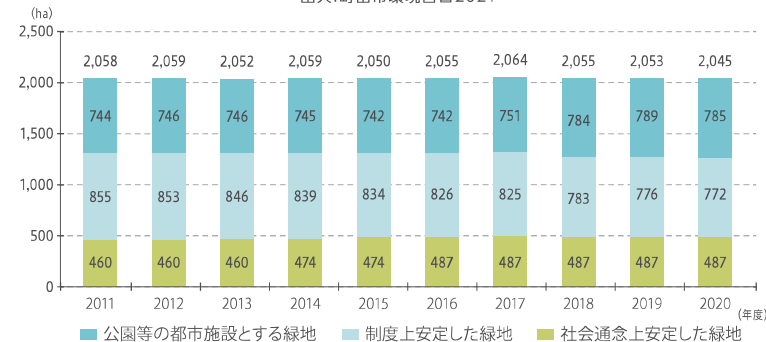
(4)子どもにやさしいまちです

- 町田市は、保育所などの整備を通じた待機児童[※]解消の取り組みや、子どもセンターや冒険遊び場の設置などによる子どもの居場所づくりが子育て世帯から評価された結果、2016年の年少人口の転入超過数が全国の市区町村(政令指定都市を除く)の中で第1位になり、近年、全国上位を維持しています。
- 町田市は、上記の取り組みに加え、市民参加型事業評価に高校生を評価人として迎えるなど、市の事業への子どもの参画の取り組みが評価され、(公財)日本ユニセフ協会CFCI委員会から「ユニセフ日本型子どもにやさしいまちづくり事業実践自治体」として承認されています。

(5)みどりがいっぱいあります

- 身近な「公園等の都市施設とする緑地」や、生産緑地、風致地区、ふるさとの森に代表される「制度上安定した緑地」、学校や社寺境内地などの「社会通念上安定した緑地」などを含めると、町田市全体の公園などの緑地面積は2020年度で2,045haとなり、市域面積の28.6%を占めています。

町田市における公園などの緑地面積
出典:町田市環境白書2021





- 生産緑地は212.7ha、1,023地区あり、対市街化区域面積比は3.9%となっています。また、生産緑地地区決定面積は多摩26市で2位の広さです。

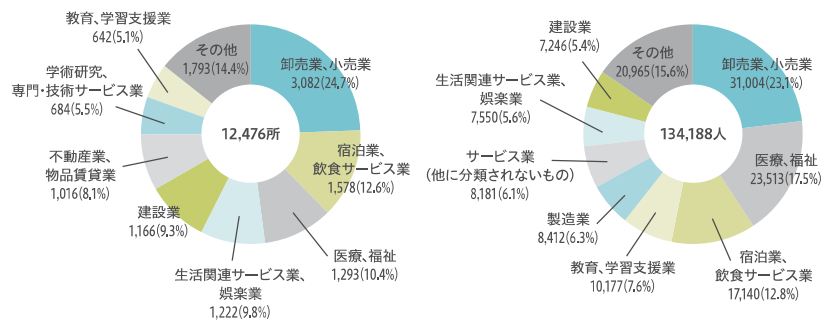
生産緑地面積の都市間比較(決定面積の大きい順)
出典:国土交通省「令和2年都市計画現況調査(2020年3月31日現在)」

順位	市名	市街化区域* 面積 (ha)	生産緑地		
			決定面積 (ha)	地区数 (地区)	対市街化区域 面積比(%)
1	八王子市	8,151	226.9	1,046	2.8
2	町田市	5,482	212.7	1,023	3.9
3	立川市	2,083	198.1	372	9.5
4	清瀬市	1,019	166.5	255	16.3
5	小平市	2,046	161.5	352	7.9
6	国分寺市	1,280	133.9	305	10.5
7	三鷹市	1,650	132.3	291	8.0
8	調布市	2,183	127.9	704	5.9
9	東村山市	1,696	123.5	327	7.3
10	東久留米市	1,148	122.4	261	10.7

(6)商都町田と呼ばれています

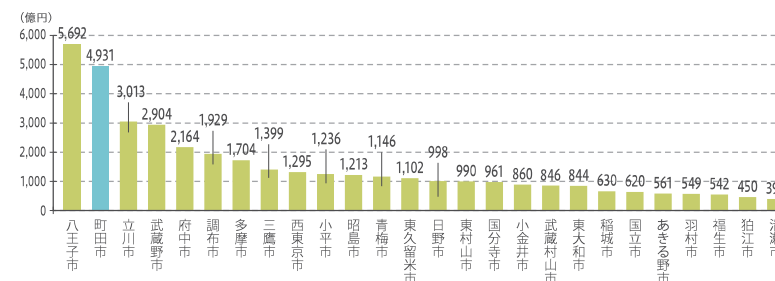
- 事業所数では「卸売業、小売業」が最も多く3,082事業所で、次いで「宿泊業、飲食サービス業」、「医療、福祉」の順となっています。また、従業者数でも、「卸売業、小売業」が最も多く31,004人で、次いで「医療、福祉」、「宿泊業、飲食サービス業」の順となっており、「商都町田」と称されるように、商業の存在感が大きい産業構造となっています。

町田市における産業大分類別の事業所数及び従業者数の構成
出典:総務省「平成26年経済センサス基礎調査(2014年7月1日現在)」



- 小売業の年間商品販売額は、4,931億円となっており、多摩26市で2位です。

小売業年間商品販売額の都市間比較
出典:総務省・経済産業省「平成28年経済センサス活動調査(2016年6月1日現在)」



(7)大学も多く学生もたくさんいます

- 市内や隣接地域には多くの大学、短期大学、専門学校などがあります。そのため、学生の年代である、15~19歳の転入超過数が多いという特性があります。
- 教育・文化のまちを形成するため、町田市を生活圏とする大学などと協力して町田市学長懇談会を開催しており、参加校の学生総数(町田圏域)は約5万人にのぼります。

町田市学長懇談会参加校





(8) 地域活動が盛んです

- 町田市町田会・自治会連合会の地区連合会、町田市青少年健全育成地区委員会、町田市民生委員児童委員協議会の3団体をはじめとした様々な団体が集まり、知恵を出し合い、協力しながら地区の課題解決や魅力向上に取り組むネットワーク組織「地区協議会」が市内全10地区で設立され、地区の特性に合わせた様々な事業に取り組んでいます。



- 市民、地域団体、事業者などが、自らの「やってみたい夢」を賛同者の協力を得ながら、主体的に実現させていく取り組み「まちだ〇ごと大作戦18-20⁺」に、316の事業エントリー、200万人以上の参加があるなど、市民活動・地域活動に積極的な土壌があります。



【取り組み事例①】

「町田木曽水かけ祭り」

地域の道路を一部封鎖して、消防団による放水訓練や参加者が水鉄砲を使って水をかけ合う非日常的な取り組み。町内会・自治会の会員数の増加や消防団員不足の解消、地域のつながりや子どもの思い出づくりにつなげたいという主催者の想いで実施。



【取り組み事例②】

「ようこそ! 鶴川OMOTENASHI大作戦」

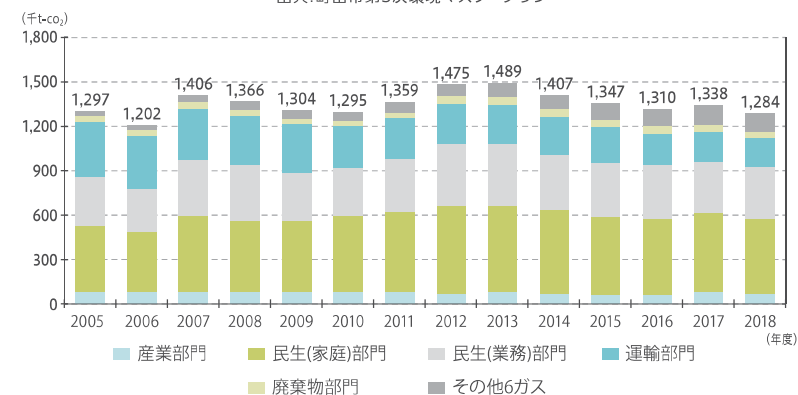
鶴川にある3つの古民家運営者と鶴川地区町内会・自治会連合会が一緒になって、新たな鶴川の魅力づくりを行いたいという想いで、香山園や各古民家で日本文化が体験できる取り組みを実施。

(9) 町田市で地球温暖化はすすんでいるのか

- 2005年度からの温室効果ガス排出量は、年度ごとに変動がありますが、ほぼ横ばい傾向にあります。

町田市における温室効果ガス排出量

出典:町田市第3次環境マスタープラン

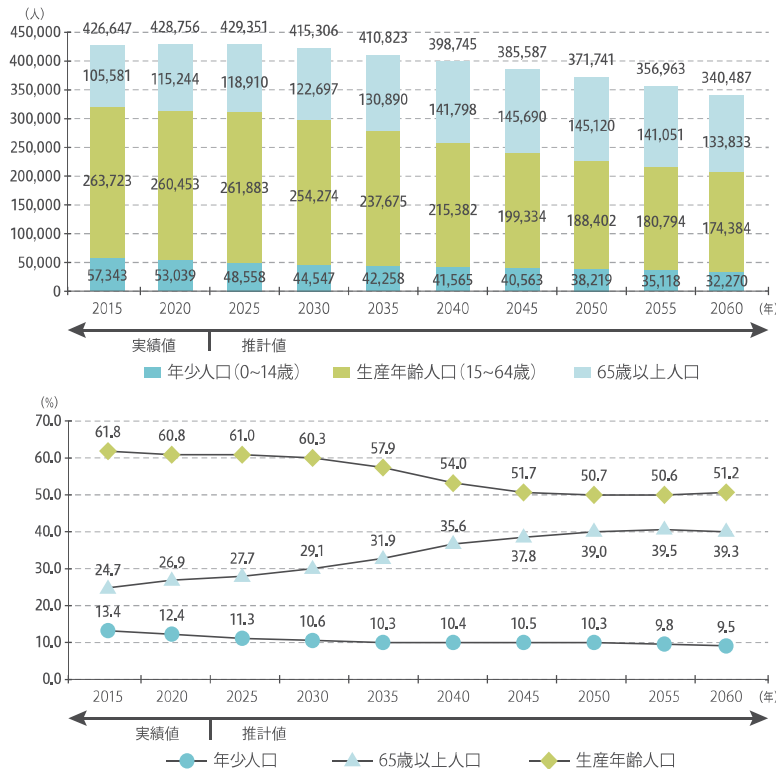


社会経済状況の変化

(1)人口減少と人口構成の変化

- 町田市が行った将来人口推計(2021年度実施)の結果に基づき、2025年以降の推移をみると、近い将来、総人口は長期にわたる減少局面に移行します。その減少幅は年を経るごとに拡大し、2040年には40万人を割り込むおそれがあります。
- 年齢階層別にみると、0~14歳の年少人口は2025年に5万人を割り込んだ後、2050年には4万人を切るころまで減少します。同様に、15~64歳の生産年齢人口は2030年頃から減少傾向がより一層進行すると予測されています。一方、65歳以上人口は、一貫して増え続け、2040年には14万人を超える水準に達すると予測されており、特に75歳以上人口は2055年まで増加し続けることが見込まれています。

町田市における将来人口の推計結果



(2)テクノロジーの発展

- 近年、実社会の中であらゆる事業・情報がデータ化され、ネットワークでつながる「IoT」、コンピュータが自ら学習し、人間を超える高度な判断を行う「AI」、多様かつ複雑な作業を自動化する「ロボット」などに代表される、「第4次産業革命」と称される技術革新が世界規模で従来にないスピードとインパクトで進展しています。
- コロナ禍は社会のあり方そのものを変える契機となり、テクノロジーを用いた新たな日常の構築が求められています。

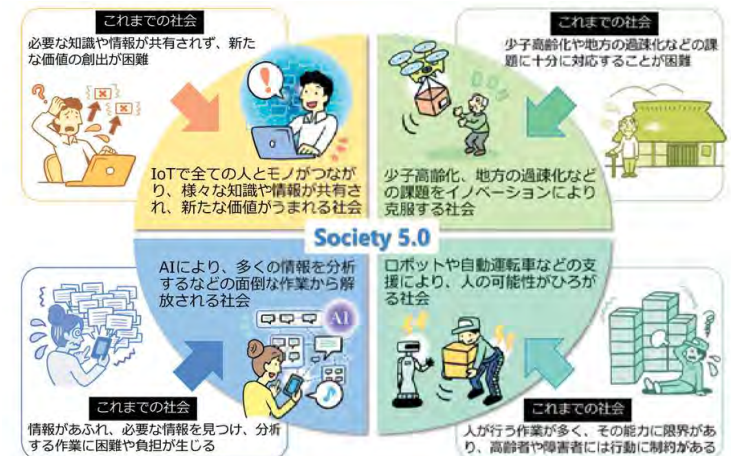
第4次産業革命技術がもたらす変化/新たな展開
出典:日本経済再生本部「未来投資戦略2018概要(要約版)」



- 国は、2016年に策定した「第5期科学技術基本計画」の中で、人々に真の豊かさをもたらす未来社会として「Society 5.0(超スマート社会)」を掲げています。また、2021年には、その実現に向けた具体的な取り組みを整理した「第6期科学技術・イノベーション基本計画」を策定するとともに、「成長戦略実行計画」においてSociety 5.0の実現に向け、「新たな成長の原動力となるデジタル化への集中投資・実装とその環境整備」として、デジタル庁を中心としたデジタルトランスフォーメーション(DX)による社会変革の推進が掲げられています。

Society 5.0で実現する社会

出典:内閣府「Society 5.0『科学技術イノベーションが拓く新たな社会』説明資料」





(3) 都市構造の変化

<小田急多摩線、多摩都市モノレールの延伸>

●2016年4月、国土交通省交通政策審議会の「東京圏における今後の都市鉄道のあり方について」の答申の中に、現在、新百合ヶ丘から唐木田まで運行中の小田急多摩線の延伸(唐木田～相模原～上溝)と、上北台から多摩センターまで運行中の多摩都市モノレール(多摩センター～町田)の延伸が盛り込まれています。両路線の延伸の意義として、小田急多摩線の延伸では、町田市及び相模原市と都心部とのアクセス利便性の向上、多摩都市モノレールの延伸では、多摩地域の主要地区間のアクセス利便性の向上がうたわれています。

小田急多摩線延伸 計画概要
出典:町田市都市づくりのマスタープラン



多摩都市モノレール延伸 計画概要
出典:町田市都市づくりのマスタープラン



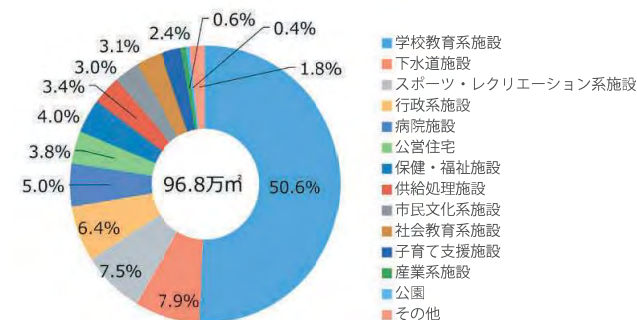
<リニア中央新幹線の開業>

●リニア中央新幹線は、東京・名古屋間の開業に向け、現在営業・建設主体である東海旅客鉄道株式会社(JR東海)によって整備が進められており、JR東海が2013年9月に公表した環境影響評価準備書の中では、中間駅の1つが近隣の相模原市の橋本駅付近に設置されることが示され、2014年10月には全国新幹線整備法に基づく工事実施計画が認可されています。

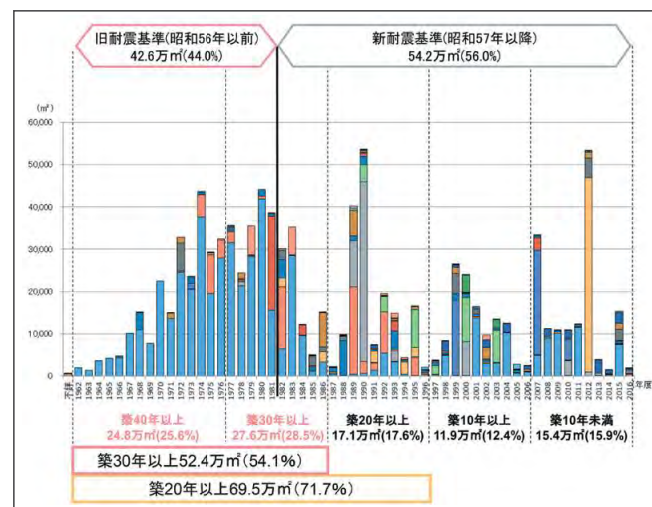
(4) 公共施設の老朽化

●町田市は、1960年代後半～1980年代前半にかけて学校教育系施設を中心に多くの公共施設を整備してきました。施設分類別の延床面積では、総延床面積96.8万㎡のうち、学校教育系施設が50.6%と過半数を占めています。また、築年数別の延床面積では、築30年以上の施設が54.1%と半数を超え、市全体として老朽化が進んでいます。

町田市における公共施設の施設分類別延床面積の構成比(2016年度末)
出典:みんなで描こう より良いかたち 町田市公共施設再編計画



町田市における公共施設の築年別延床面積割合(2016年度末)
出典:みんなで描こう より良いかたち 町田市公共施設再編計画





<基本計画編>

第Ⅳ章

まちづくり基本目標と 経営基本方針



1

計画策定の 基本的な考え方

「まちづくり基本目標」と「経営基本方針」は、「2040なりたい未来」で掲げた、なりたいまちの姿と行政経営の姿を実現させるため、まちづくりの方向性と行政経営の方向性に沿って、何を目標にどのようにまちづくりを進めるかを体系的に示す、市政運営の基本となる計画で、以下のような点を特徴として策定しています。

(1)ライフステージを意識した政策体系

「まちづくり基本目標」については、2040年を見据え、多様なライフスタイルとこれからの人の生き方を思い、誰もが夢を持ちその夢を実現できる、一人ひとりが輝けるまちをつくるため、ライフステージを意識した政策体系とします。

(2)行政経営の手法と資源の明確化

「経営基本方針」については、「まちづくり基本目標」を実現するために必要な行政経営の手法と資源を明確に示し、市役所の能力を高めるとともに、市民一人ひとりのニーズに適したサービスを生み出していきます。

2

計画期間と 想定人口

計画期間は2022年度から2031年度までの10年間とし、2031年度における想定人口を41万5千人とします。

3

なりたいまちの姿の 実現に向けた課題

(1)希望出生率の実現

町田市の希望出生率は1.91(2019年度実施)であるのに対して、合計特殊出生率は1.24前後で推移しており、希望がかなっていない状態であると言えます。人口の増加減少に関わらず、子どもと共に成長し、幸せを感じることができるよう、子育ての希望がかなうまちをつくることが求められています。

(2)年少人口転入超過数の維持

町田市は近年、年少人口の転入超過数が全国上位に位置しています。子どもに関わる施策だけでなく、これまでのまちづくりが総合的に評価された結果と言えます。

魅力あるまちづくりを進め、町田市のよさをさらに伸ばすことで、今後も年少人口の転入超過を維持していくことが求められています。

(3)20代・30代の転入促進

町田市は、近隣に大学や専門学校などが多数あり、学生の年代である15～19歳が大きく転入超過している一方、卒業から就職期の年代である20代は大きく転出超過になっています。

これらの年代は今後の子育て世帯につながる層であるため、就職を機に自立する20代から30代にかけての転入促進が求められています。

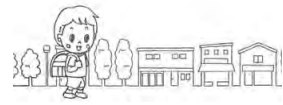
(4)45～64歳への退職後を見据えた生き方の支援

2040年に団塊ジュニアが65歳になり、2045年には65歳以上人口がピークに達します。この世代は、現在の人口のボリュームゾーンでもあるため、2040年を見据え、次の生き方を学ぶ機会や場を提供することが求められています。

(5)全世代での自己実現機会の創出

人口減少・超高齢社会においては、高齢者を支援の対象としてだけでなく活躍する世代と捉え、充実した生活を送っていただくことが健康寿命の延伸にもつながります。

また、20代・30代の中では、ミレニアル世代と呼ばれる、お金を得る事だけを目標としない、何かに貢献したいという生き方を望む人たちが現れています。こうした利他的な活動を選択する層に対して活躍の場を提供することが求められています。



4

行政経営の姿の 実現に向けた課題

(1)新たな価値を生み出す公共サービスの展開

複雑化・多様化する市民ニーズや行政課題に適切に対応していくためには、町田市単独ではなく、市民、地域団体、事業者などと一緒に課題に向き合い、新たなサービスを生み出していくことが重要です。このため、行政の持つ情報を活用しやすい形で共有するなど、多様な主体が公共サービスの担い手になれる環境を整備し、最適な担い手と共に地域課題を解決できるよう、外部からのアイデアとスキルを積極的に受け入れていかなければなりません。

行政のフルセット主義を脱却し、様々な担い手と共に、公共サービスを提供していく仕組みをつくっていくことが求められています。

(2)市役所の生産性の向上

市役所の生産性をより高めていくためには、職員の意識改革と能力開発を進め、組織マネジメントを強化していかなければなりません。社会環境の変化を的確に捉え、常に変革し続けることができる経営能力の高い職員を育成し、革新的なサービスの創造と生産性の向上を両立できる組織づくりを進めていくことが必要です。

市民視点に立って行動し、社会環境の変化に柔軟に対応できる経営感覚を持った職員を育成することで、市民からも職員からも選ばれる組織づくりを進めていくことが求められています。

(3)行財政資源の戦略的・効果的な活用

将来にわたって継続的に最適な公共サービスを提供していくためには、限られた行財政資源を戦略的・効果的に活用して最小の経費で最大の効果を追求していく必要があります。

将来を見据え、総合的な視点から政策の優先度を明らかにするとともに、戦略的な行政資源の投入を進めていけるよう、これまで以上に財政運営に関するマネジメント力を強化していくことが求められています。

財政収支見通し

2022年度の当初予算において、市の収入の根幹をなす市税は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う景気悪化の影響から、過去のリーマンショック*などの経験を基に、大幅な減収を見込んでいましたが、その影響が限定的であったことから、前年度当初予算と比較して増加を見込みました。その一方で、2022年2月時点において、感染者数が過去最多となるなど、市税収入に与える影響は、依然、不透明な状況です。

また、歳出では、介護保険事業会計、後期高齢者医療事業会計への繰出金や障がい者サービス給付費などの社会保障費が増加しており、構造的収支不足*は引き続き顕在化しています。このような厳しい財政状況ではありますが、2022年度からは、「まちだ未来づくりビジョン2040」や、その実行計画である「町田市5ヵ年計画22-26」が始まるため、目標達成に向けた取り組みを着実に推進し、未来に希望の持てる地域社会を実現していかなければなりません。

今後の財政見通しとしては、市税収入は、最新の人口推計を基に試算し、2022年度以降、一定程度まで回復することを見込んでいますが、2023年度以降の推計額には、都市計画税の税率を本則の0.3%に改定することを前提に、試算しています。

また、歳出については、義務的経費である人件費、扶助費、公債費を確実に見込みつつ、「町田市5ヵ年計画22-26」において掲げる事業を実施するために必要な経費を見込んでいます。

ただし、新型コロナウイルス感染拡大などの影響により、今後の経済状況は不確定要素が多く、将来を見通すことは難しいことから、「まちだ未来づくりビジョン2040」の基本計画期間である2022年度から2031年度までの10年間の財政見通しを立てることは困難な状況です。

そこで、「町田市5ヵ年計画22-26」において、計画策定時の財政制度や手当・医療制度等が続くものとして、5年間(2022年度～2026年度)の財政見通しを立てるものとします。

なお、2027年度から2031年度の5年間の財政見通しは、次期実行計画の策定時に改めて見通しを立てるものとします。

市は、今後も引き続き社会経済状況をはじめ、国の経済予測及び財政計画の動向を注視し、財政収支の見込みを把握しながら健全な財政運営に努めます。



■参考資料 5年間(2022～2026年度)の財政見通し

単位：億円
(1億円未満 四捨五入)

	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	5ヵ年合計
歳入(一般財源)	936	935	964	960	962	4,757
市税	685	694	695	696	696	3,466
譲与税・交付金等	141	140	136	141	147	705
基金繰入金	36	20	45	40	40	181
その他	74	81	88	83	79	405

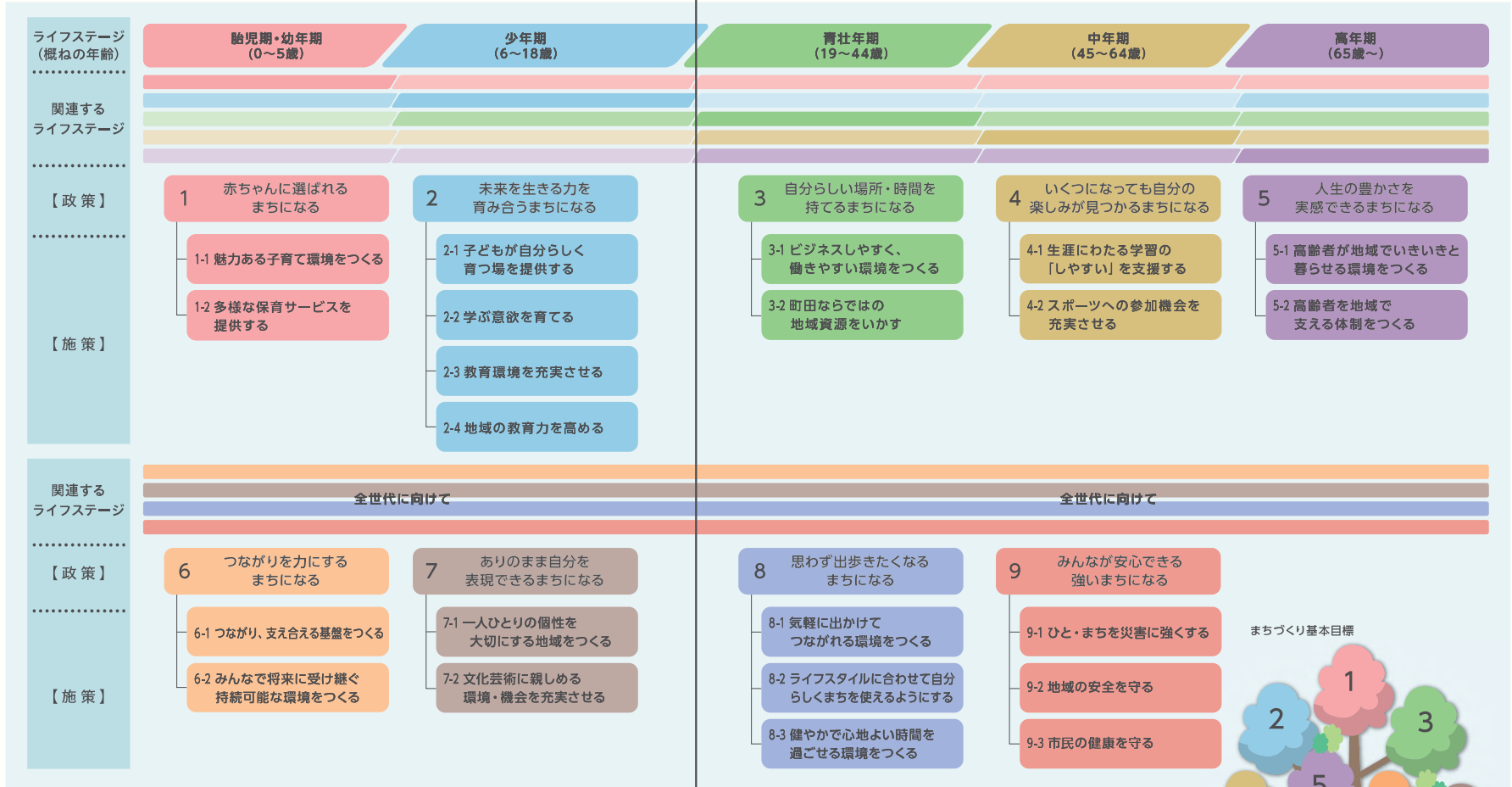
歳出(一般財源)	936	939	983	984	989	4,831
義務的経費	400	394	406	410	415	2,025
人件費	201	190	197	189	194	971
扶助費	127	128	130	131	133	649
公債費	72	76	79	90	88	405
その他の経費	536	545	577	574	574	2,806
繰出金等	181	176	181	182	185	905
事業費	355	369	396	392	389	1,901
経常事業費	311	313	315	315	310	1,564
政策的事業費	44	56	81	77	79	337

歳入-歳出(=▲収支不足額)	0	▲4	▲19	▲24	▲27	▲74
----------------	---	----	-----	-----	-----	-----

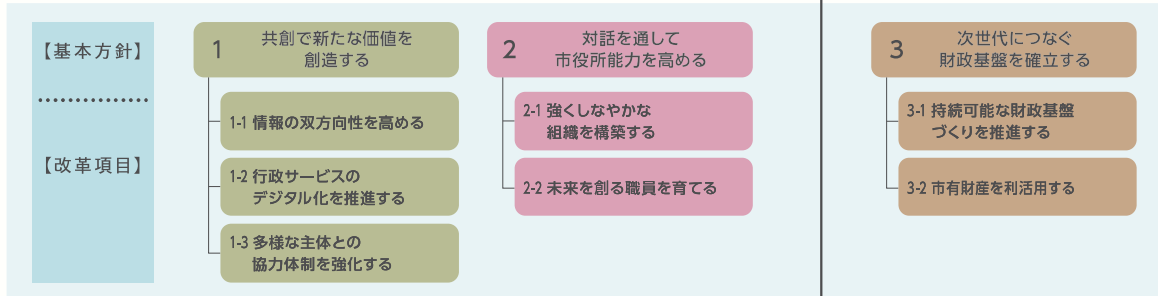
*2023年度から2026年度の収支不足額については、「町田市5ヵ年計画22-26」における財政見通しにおいて、経営改革プランの取り組み及び経常事業費などの縮減によって対応することとしています。



まちづくり基本目標



経営基本方針



※「関連するライフステージ」では、政策の関連度を色の濃淡で示しています。



経営基本方針は、まちづくり基本目標の実現を支えます。

持続可能な開発目標

(SDGs:Sustainable Development Goals)の実現

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2015年9月の国連サミットで採択された、持続可能な世界の実現のために2030年までに世界中で取り組む国際目標です。持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するための17のゴールから構成され、未来を見据えたバックカスティング*の発想を活用し「誰一人取り残さない」ために、先進国を含めた全ての国で取り組みが進められています。

町田市がこれまでに進めてきたまちづくりの取り組みは、多くの点でSDGsの理念や目標と合致することから、引き続き「まちだ未来づくりビジョン2040」における政策や施策の推進を通して、SDGsの実現に貢献していきます。

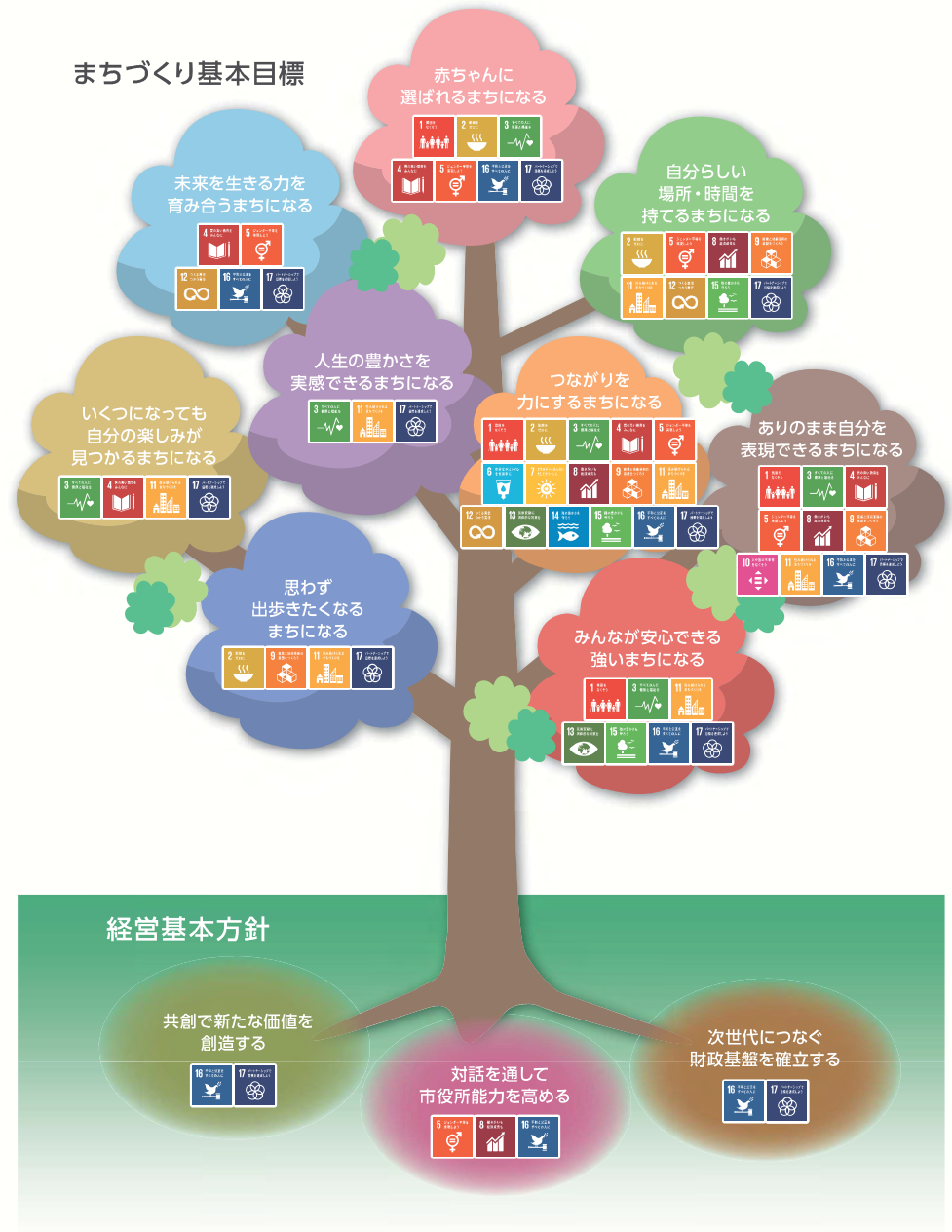
この冊子では、ビジョンとSDGsの関係をわかりやすく示すため、「まちづくり基本目標」「経営基本方針」に掲げる施策・各方針とSDGsとの結びつきを記載しています。

SDGsの17の目標

 1 【貧困】 あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。	 7 【エネルギー】 すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。	 12 【持続可能な生産と消費】 持続可能な生産消費形態を確保する。
 2 【飢餓】 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。	 8 【経済成長と雇用】 包摂かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する。	 13 【気候変動】 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。
 3 【保健】 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。	 9 【インフラ、産業化、イノベーション】 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。	 14 【海洋資源】 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。
 4 【教育】 すべての人々への包摂かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。	 10 【不平等】 各国内及び各国間の不平等を是正する。	 15 【陸上資源】 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を防止する。
 5 【ジェンダー】 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。	 11 【持続可能な都市】 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。	 16 【平和】 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。
	 17 【実施手段】 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。	



まちだ未来づくりビジョン2040とSDGsとの関係





第Ⅴ章

まちづくり基本目標



ページの構成

まちづくり基本目標では、政策と施策ごとのなりたい姿や現状と課題、指標などを示しています。各項目の内容については、次のとおりです。

政策名

ライフステージ表示
どの年代と関わりがあるかの濃淡で示しています。

政策実現によってなりたい姿
政策を実現することによって、まちがどのようになっているかを記載しています。

政策の説明

政策実現にあたって意識する指標
政策の進捗状況を把握するための指標を設定しています。
① 指標の名称
② 現状値
③ 目標の方向
↑：上昇、増加、向上
→：現状維持
↓：低減、減少、削減

現状と課題
計画策定時点(2021年度)の政策に関する現状と課題を記載しています。

政策に紐づく施策
政策を実現するための施策を記載しています。

<政策ページ>

施策名
政策を実現するための施策の名称を記載しています。

SDGsアイコン
SDGsのどのゴールに主に関連するかを示しています。

施策実現によってなりたい姿
施策を実現することによって、まちがどのようになっているかを記載しています。

なりたい姿の実現に向けた取り組み
施策の課題を解決し、なりたい姿の実現のため必要な取り組みを記載しています。

なりたい姿の実現度を測る指標
施策の進捗状況を把握するための指標を設定しています。
① 指標の名称
② 現状値
③ 目標値

現状と課題
計画策定時点(2021年度)の政策に関する現状と課題を記載しています。

関連する町田市の計画
施策に関連する計画策定時点(2021年度)の町田市の計画を記載しています。

みんなの想い
なりたい姿の実現に向けた市民・事業者の想いや協力できることを記載しています。

<施策ページ>

胎児期・幼年期
(0～5歳)

少年期
(6～18歳)

青壮年期
(19～44歳)

中年期
(45～64歳)

高年期
(65歳～)

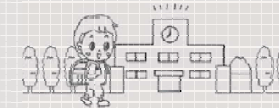
\ 政策 /

1

赤ちゃんに選ばれる まちになる



赤ちゃん自身が暮らす場所を選ぶことはできませんが、その親や保護者となる人たちが安心して子どもを産み育てていけると思えることが、つまりは赤ちゃんに選ばれていると言えます。そんな場所として町田市が選ばれ続けていくよう、また、多くの人の子育ての希望がかなえられるよう、魅力ある子育て環境の整備や、育児と仕事の両立支援などを行っていきます。



POLICY

政策実現によってなりたい姿

子育て世帯をはじめ、周囲や地域の人たちみんな楽しく子育てができています。

政策実現にあたって意識する指標



現状と課題

少子化や核家族化の進行、共働き世帯の増加という傾向は、日本全体で今後も続いていくことが見込まれるため、働きながら子育てすることが当たり前ができる環境づくりが求められています。

政策に紐づく施策

施策1-1

魅力ある子育て環境をつくる

施策1-2

多様な保育サービスを提供する

施策 1-1

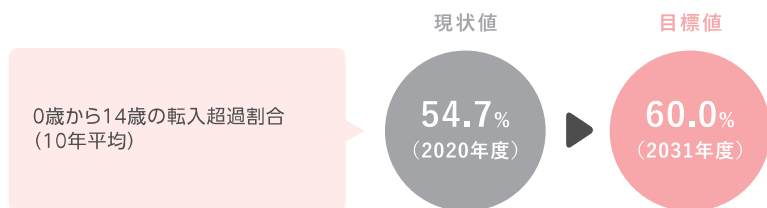


魅力ある子育て環境をつくる

施策実現によってなりたい姿

- 子育て世帯の誰もが必要な情報を把握し、支援が必要ときに支援を受け、相談が必要ときに相談を受けられる環境になっています。
- 子ども・子育て支援が切れ目なく行われている環境になっています。

なりたい姿の実現度を測る指標



現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 育児支援、環境整備などの少子化対策を実施しています。

【町田市の現状・課題】

- 子育て支援に関する情報が多くある中で、その情報を知らない人への周知や情報発信ツールの整理・統合が課題です。
- 育児に対する不安や悩みを抱える保護者が、身近な場所で相談できるよう、相談支援をさらに充実することが求められます。

【今後予想される課題】

- 新型コロナウイルス感染症対策の面からも、新たな支援の形を検討していくことが必要です。



なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 切れ目のない子育て支援

妊娠期から相談できる体制を構築し、乳幼児とその保護者の交流の場などからも気軽に相談できるようにします。

また、子育てについての相談や情報の提供・援助を行えるようにすることで、育児の負担感や不安感の軽減につなげます。

2 サポートが必要な子ども・家庭への支援

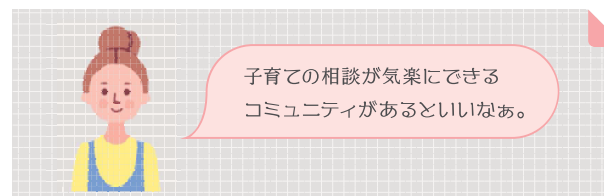
ひとり親家庭や発達に支援が必要な子ども、医療的ケア児[※]などを支援します。

また、児童虐待への理解を深めてもらうことで将来的な児童虐待の未然防止につなげ、すべての子育て世帯が安心して生活できるよう支援します。

関係する町田市の計画

- 新・町田市子どもマスタープラン

みんなの願い



施策 1-2

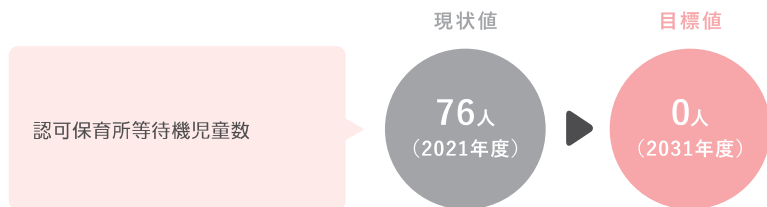


多様な保育サービスを提供する

施策実現によってなりたい姿

- 子育てと仕事の両立ができ、ワークライフバランス^{*}が保てることで、充実した子育てや仕事を実現しています。
- 保育を必要としているときに必要な保育サービスを利用できる環境を実現しています。

なりたい姿の実現度を測る指標



現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 国の「新子育て安心プラン」では、2021年度から2024年度末までに、女性の就業率82%に対応する約14万人分の保育の受け皿を整備することとしています。
- 国の「新しい経済政策パッケージ^{*}」では、幼児教育・保育の無償化を打ち出しています。

【町田市の現状・課題】

- 0～11歳までの人口推移は、2020年までの5年間で3,600人減少しており、今後も減少傾向が続くことが見込まれます。

【今後予想される課題】

- 就労していない保護者(母親)のうち、「1年以内または1年より先に就労したい」人が半数を超え、保育ニーズの高まりが続いています。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 多様な保育の充実

保育を必要としているすべての子育て世帯が、必要としている保育サービスを受けられるようにするため、保護者の多様な働き方に対応した取り組みを行います。

2 保育所待機児童の解消

必要な地域に必要な保育施設(認可保育所、小規模保育事業所など)の整備を行います。また、施設整備にあたっては、地域ごとの資源や子どもの数の変化を踏まえ、新設園の整備だけでなく、既存園の増改築や定員数の変更などにも取り組みます。

関係する町田市の計画

- 町田市教育プラン2019-2023
- 町田市生涯学習推進計画2019-2023
- 新・町田市子どもマスタープラン

みんなの想い

働く親の代わりとなって、
子どもの送り迎えなどの
保育の手助けができればなあ。





胎児期・幼年期
(0～5歳)

少年期
(6～18歳)

青壮年期
(19～44歳)

中年期
(45～64歳)

高年期
(65歳～)

政策 /

2

未来を生きる力を 育み合うまちになる



子どもたちは未来に向かって、やりたいことややりたいものを選び取っていきます。そして、その選択肢を増やせるよう支えていくことが市の責務です。町田市で育った子どもたちが様々な分野で活躍できるよう、また、地域全体で成長していくことができるよう、子どもたちの学ぶ意欲を育てる取り組みや、教育環境の充実などを図っていきます。

POLICY

政策実現によってなりたい姿

大人と子どもが共に成長し、まちづくりに取り組んでいます。

政策実現にあたって意識する指標

子どもがいいきと育つ 地域環境が整っていると思う 市民の割合	現状値 53.0% (2021年度)	目標値 ↑
--------------------------------------	---------------------------------	----------

将来の夢や目標を持っている 児童・生徒の割合	小 82.8% 中 367.6% (2019年度)	↑
---------------------------	---	---

現状と課題

情報化やグローバル化*が進む社会において、子どもたちが主体的に行動していくための基礎となる学習環境の整備や、学校、家庭、地域の連携体制の構築などが求められています。

政策に紐づく施策

施策 2-1

子どもが自分らしく
育つ場を提供する

施策 2-2

学ぶ意欲を育てる

施策 2-3

教育環境を充実させる

施策 2-4

地域の教育力を高める

施策 2-1

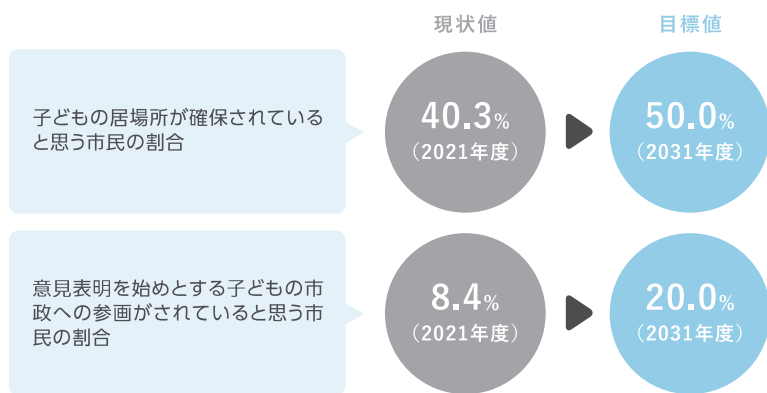


子どもが自分らしく育つ場を提供する

施策実現によってなりたい姿

- 行政のあらゆる活動に子どもが意見でき、大人と共にまちづくりに取り組んでいます。
- 家庭の事情に関係なく、子どもが「活動の場」「生活の場」「豊かに過ごせる場」を選択できるまちになっています。

なりたい姿の実現度を測る指標



現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 2020年の国内の出生数は、統計以来最も少なくなりました。この少子化傾向は、今後数十年続くことが見込まれます。

【町田市の現状・課題】

- 合計特殊出生率が、国や多摩26市の平均を下回っている状況です。

- 近年、年少人口の転入超過が続いており、子育て世帯に選ばれるまちになっています。

【今後予想される課題】

- 子どもを産み育てたい人たちの希望をかなえられる環境づくりが必要です。



なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 子どもの参画の推進

子どもたちが大人と共に、市政に関する意見交換や検討の機会に参画できるようにします。また、子どもの参画を推進することで、ユニセフが主唱する「子どもにやさしいまちづくり」を実現します。

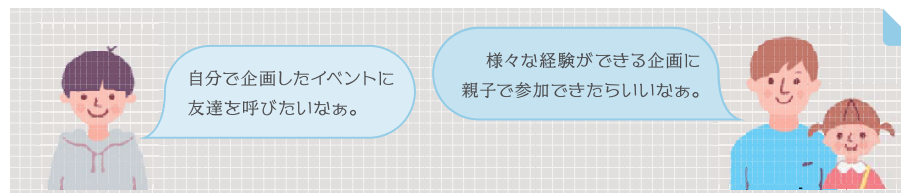
2 子どもの居場所・活動拠点づくり

0～18歳の子どもたちが、遊び、野外活動、創作、スポーツ、調理などの様々な体験活動や異なる世代との交流を通して、社会性とコミュニケーション能力を育む場を提供します。

関係する町田市の計画

- 新・町田市子どもマスタープラン

みんなの願い



施策 2-2

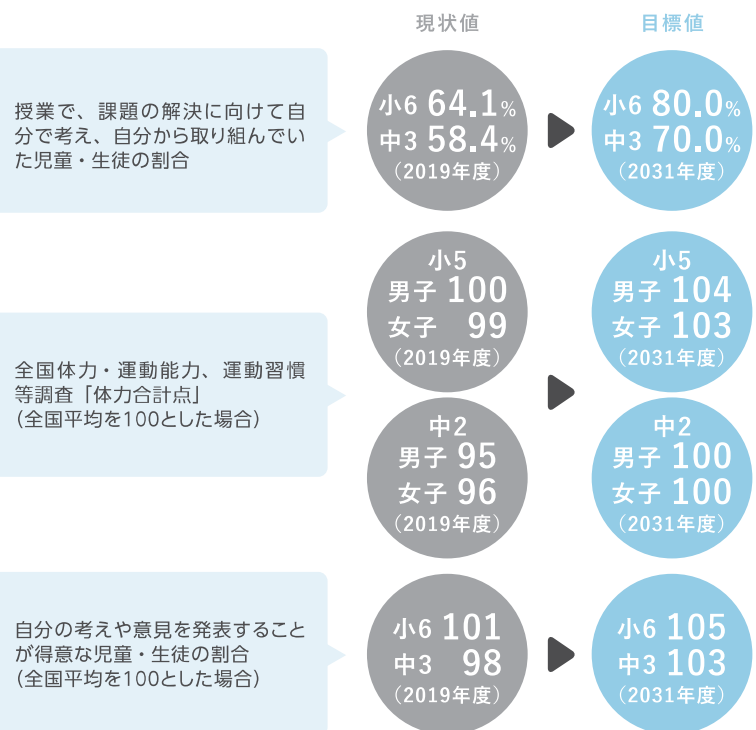
学ぶ意欲を 育てる



施策実現によってなりたい姿

- 次代を担う子どもたちが、グローバル化やICTなどの技術革新が急速に進み、予測困難なこれからの社会において、夢や志を持ち、自ら考え、目標に向かってたくましく生きることができるようになっています。

なりたい姿の実現度を測る指標



現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、「学びの保障」をどう確保していくかが課題となっています。
- 2020年度に小学校で、2021年度に中学校で新学習指導要領が全面実施され、小学校3・4年生に外国語活動、5・6年生に外国語が導入されました。英語教育の本格実施に伴い、指導力の強化、指導体制の充実が求められます。

【町田市の現状・課題】

- 児童・生徒の学力・体力は、東京都と比較して低い状況です。

- えいごのまちだ事業の展開もあり、「英語が楽しいと思う」小学校5年生の児童の割合が増加傾向です。2020年度は、コロナ禍による授業形態の制限などにより、その割合が若干減少したため、指導形態などの工夫が必要です。

【今後予想される課題】

- グローバル化やICTの技術革新が急速に進むなど、予測困難なこれからの社会に子どもたちが対応できる力をいかに育んでいくかが課題です。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 児童・生徒の学力の向上

一人1台のタブレット端末配備による個別最適化や協働的な学びの場面を取り入れ、児童・生徒の学力向上を推進します。また、対話形式の学習機会を増やすなど、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善に取り組みます。

加えて、英語教育では、体験し実践する機会を確保し、コミュニケーション能力の育成に重点を置いた町田ならではの教育を進めます。

2 児童・生徒の体力の向上

共に競い合い高め合う機会や楽しく運動する機会を充実させ、児童・生徒の運動への興味・意欲を高めます。

さらに、運動部活動のあり方を見直し、生涯スポーツに取り組める多様な場となるような仕組みづくりを進めます。

3 キャリア教育※の推進

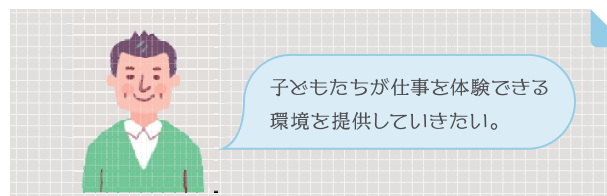
持続可能な社会の創り手に必要な社会的自立・職業的自立の基盤となる能力を育むため、キャリア教育を推進します。

また、多様な職業に対する興味・関心を高めるため、企業による出前講座や仕事の体験、学校ごとの取り組みの工夫、キャリア・パスポート※の効果的な活用など、体系的なキャリア教育を進めます。

関係する町田市の計画

- 町田市教育プラン2019-2023

みんなの想い



施策 2-3

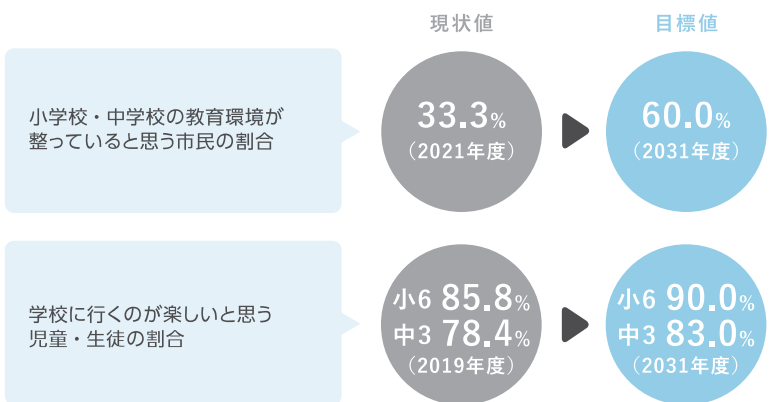
教育環境を 充実させる



施策実現によってなりたい姿

- 質の高い教育環境の下で、子どもたち一人ひとりの能力・可能性が育まれています。
- 子どもがいつでもどこでも誰でもそれぞれに適した方法・場所で教育を受けることができます。

なりたい姿の実現度を測る指標



現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 学校施設は老朽化し、建物の更新や費用の平準化が課題です。国では、長寿命化計画に基づく予防的な改修工事を対象とする補助制度を拡充しています。
- 東京都は、国の「学校における働き方改革に関する緊急対策」を受け、教職員の負担を軽減するとともに、学校の運営体制について検討しています。

【町田市の現状・課題】

- 町田市立小・中学校は建設時期が1970年代に集中し、2021年4月時点で築30年以上の学校施設が55校とな

っており、老朽化施設の整備や改修、建替えを計画的に行うことが必要です。

- 子どもを取り巻く課題の複雑化や教育ニーズの多様化による学校教員の負担増を軽減するため、学校を支える人員体制の構築を進めています。
- 児童・生徒数は減少している一方で、特別な支援を必要とする児童・生徒の人数が増加しています。
- 中学校給食については、従来の選択制給食の利用が減少傾向にある中で、家庭環境の多様化に伴い、全員給食を求める声が多くなってきています。

【今後予想される課題】

- 学校統合などを契機とした建替えを行う学校において、質の高い学校施設の整備が必要です。
- “生きた教材”である学校給食を通して、子どもたちの食を正しく選び取れる力を強化していく必要があります。



なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 質の高い教育環境の整備

小・中学校の機能向上と老朽化対策を目的とした改修・建替えを計画的に進め、学校施設に求められる機能・性能の確保や、ライフサイクルコスト*の縮減を図ります。

また、成長期のすべての中学生に安全・安心で栄養バランスの整った「温かい給食」を提供するため、「給食センター方式による中学校全員給食」の導入に取り組みます。

2 学校のマネジメント力の強化

校務の見直しや専門的な知識を持った人材などを適切に活用し、複雑かつ専門的な教育ニーズに対応できる組織体制を整備します。

3 特別支援・不登校支援の充実

特別支援教育プログラムを改定し、すべての教員の特別支援教育に対する意識・指導力を向上させます。また、特別支援教室の環境を改善し、情緒障がいなどの生徒への指導内容の充実を図ります。

さらに、教育センターの適応指導教室などを拡充し、不登校児童・生徒の支援の充実を図ります。

関係する町田市の計画

- 町田市教育プラン2019-2023
- みんなで描こうより良いかたち 町田市公共施設再編計画
- 町田市新たな学校づくり推進計画
- 町田市立学校個別施設計画
- 町田市立学校個別施設計画 ～学校整備計画編～

みんなの願い

温かくておいしい給食を
食べたいなあ。



地域の教育力を高める

施策実現によってなりたい姿

- 地域人材の経験やスキルをいかし、子どもたちが未来を生きる力を育むとともに地域人材の活躍の場を作り出す双方向の「連携・協働」型の活動が充実しています。

なりたい姿の実現度を測る指標

学校は地域と一体となって子どもを育む場であると感じる保護者の割合



現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- つながり、支え合いの希薄化などによる地域社会の教育力の低下が指摘されています。
- 従来の地域の個別活動を、学校と連携・協働して子どもの成長を支える地域学校協働本部へ発展させることを急務としています。

【町田市の現状・課題】

- 学校支援ボランティア*と学校ニーズの不一致による人材不足や学校ごとの取り組みの格差を解決した継続的・安定的な活動づくりを進めることが求められています。
- 学校が地域に支援してもらっただけでなく、地域と学校が共に育つための仕組みづくりが求められています。

【今後予想される課題】

- 高齢化による学校支援ボランティアの担い手の減少が予想される中で、担い手の確保や更なる人材の活用が求められます。
- 核家族化が更に進み、子どもたちが親と教員以外の大人に関わる機会が減ると予想される中で、地域による学びの必要性が高まっています。
- 学校施設を地域に開放するなど、学びたいときに学べる場を充実させることが課題です。



なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 学校と地域の協働

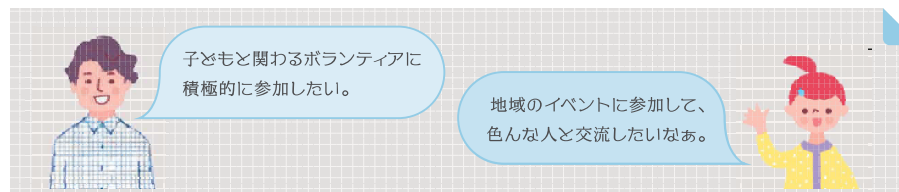
学校支援ボランティアを活用した授業づくりや多様な交流を通じて、児童・生徒に幅広い知識や能力を習得させるとともに、情操や人間性を育成します。

また、コミュニティ・スクール*を推進し、学校と地域住民が目標を共有することで、共に育つ学校と地域の協働体制を確立します。

関係する町田市の計画

- 町田市教育プラン2019-2023

みんなの想い



胎児期・幼年期
(0～5歳)少年期
(6～18歳)青壮年期
(19～44歳)中年期
(45～64歳)高年期
(65歳～)

\ 政策 /

3

自分らしい場所・時間を
持てるまちになる

都市と自然が共存する町田市は、それぞれの思い描くライフスタイルを実現できるまちです。仕事でも遊びでも、自分らしくいられる場所や時間を持てることは、暮らしの質を向上させます。働き盛りの世代をはじめ、町田市で活動する人たちが充実した日々を過ごせるよう、多様な働き方に適した環境づくりや、地域資源の魅力向上、情報発信などを行っていきます。

POLICY

政策実現によってなりたい姿

様々な活動が生まれ、活気と魅力があふれる町田市のことを誰もが好きになっています。

政策実現にあたって意識する指標

居心地がいい場所と時間が
町田市にあると思う
市民の割合



現状と課題

技術革新や社会環境の変化を捉えながら、市内経済を活性化させることが重要であり、併せて、まち全体で新しい生活様式に適応していくことが求められています。

政策に紐づく施策

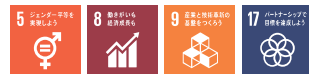
施策3-1

ビジネスしやすく、
働きやすい環境をつくる

施策3-2

町田ならではの
地域資源をいかす

施策 3-1



ビジネスしやすく、 働きやすい環境をつくる

施策実現によってなりたい姿

- 多様な働き方が実現できるまちとして、多くの人に選ばれるとともに、ビジネスに適した環境として、多くの事業者からも選ばれるまちになっています。
- 立ち上げる・拡げる・つなぐチャレンジの支援を通じて、起業・創業がしやすい風土が根付き、事業から新しい価値が生み出されるとともに、優れた技術・ノウハウが次世代に受け継がれるまちになっています。

なりたい姿の実現度を測る指標



現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 経済がグローバル化し、またICTの普及するスピードが加速しています。
- 生産年齢人口の減少に伴い、人手不足が深刻化しています。

【町田市の現状・課題】

- より多くの創業を後押しするとともに、創業後の事業拡大を支援することが必要です。
- 製品・サービスの差別化や新事業の展開などにより、市内事業者の競争力を強化するとともに、事業から生み出される価値を高めることが必要です。

- 後継者不足で自主廃業せざるを得ない「黒字廃業」のケースも見られ、よりよい状態で事業を続け、次世代へ事業を継承していくことが必要です。

【今後予想される課題】

- 経済の更なるグローバル化により、世界経済の競争や影響を受けやすくなります。
- 人口減少が進むことにより人材確保が課題になるほか、市場規模の縮小が見込まれます。



なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 起業・創業の支援

起業・創業の魅力を伝えるとともに、「町田創業プロジェクト*」を通じた支援に加え、多様な担い手による支援体制を構築し、起業・創業者や創業希望者を支援します。また、事業者の成長段階に応じた継続的な支援や、起業・創業後の事業拡大に必要なアフターフォローを進めます。

2 競争力強化の支援

新商品・新サービスへの挑戦の支援や、アイデアや技術の保護・権利化や有効活用に向けた支援を行います。また、町田産の商品・サービスの魅力を広くPRし「町田ブランド」の醸成を進めるほか、開発した商品やサービスの販路拡大を後押しします。

3 事業継続や承継の支援

安定した事業継続のため、経営相談や業務改善、人材確保・育成の取り組みを支援します。また、事業承継に関する情報発信や相談対応、承継希望者とのマッチングのほか、事業承継の手続きのサポートなど、「町田市事業承継推進ネットワーク」を構成する機関の専門分野をいかながら幅広く支援します。

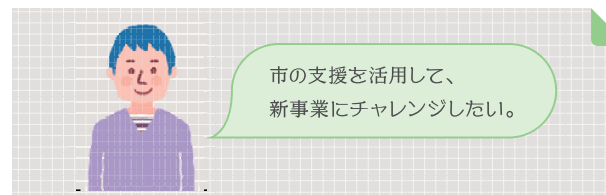
4 チャレンジを促進するための環境づくり

幅広い世代が働きやすい環境づくりを進めるとともに、中小企業従業者の福利厚生を支援します。また、中小企業者に対する資金調達の支援や産業情報の発信を行うほか、市内への事業所設置や事業拡大を支援します。

関係する町田市の計画

- 町田市産業振興計画19-28

みんなの想い



施策 3-2



町田ならではの 地域資源をいかす

施策実現によってなりたい姿

- 子育て・教育や経済・観光、スポーツ・生涯学習、地域活動などのまちの魅力が、「町田ならではの地域資源」として認識されています。
- メディアや口コミ、WEB(SNS※)などを通して発信されることにより、市内外の人の交流が生まれ、町田に対する市民の誇り・愛着や市外からの関心・憧れが育まれています。

なりたい姿の実現度を測る指標



現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 国は、「観光立国」を掲げ、観光を成長産業として位置づけています。
- 人口減少や過疎化に伴い農業者と耕作農地の減少が進み、国内食品自給率は減少を続けています。
- 農地の活用や、遊休農地[※]の再生、離農対策、新たな担い手の育成に向け、各自治体への支援を行っています。
- 様々な生物を育む役割を担う里山[※]は、将来にわたり保全していくことが求められています。

【町田市の現状・課題】

- 「まちだ〇ごと大作戦18-20⁺」の実施により新たに生まれた人のつながりや地域の交流が深まる様子を「町田ならではの地域資源」として発信していくことが必要です。
- 町田ならではの知られざる観光資源をいかに発掘し、磨き上げるかが課題です。
- 農産物の販路が限られており、販売できる量に合わせた生産量となっています。
- 町田産農産物の販路について、直売所に加え、市民の多

様なライフスタイルや新たな生活様式に対応するため、生鮮食品ECサービス[※]を導入しました。

- 里山環境の荒廃が進行する一方で、里山に興味を持つ人や実際に来訪する人が増えています。

【今後予想される課題】

- 豊富な観光資源をいかし、町田市の魅力を体験できる観光施策が必要です。
- 農業者と農地の減少を防ぐため、就農者が安定した農業収入を得られるよう、販売量を増やす取り組みが必要です。



- 鮮度の高い安全・安心な町田産農産物を誰もが購入しやすい環境と、その需要に見合う生産量の確保が求められます。
- 里山環境を再生し、時代に即した循環サイクルの構築が求められます。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 シティプロモーション[※]の推進

市民、地域団体、事業者など多様な主体の活動が市内各地域で広がり、新たな活力が生まれ続ける様子を、まちの魅力として市内外に情報発信します。

2 観光まちづくりの推進

市民と行政が歴史、自然、文化などの地域素材を見つめ直し、磨き上げることで、交流を生む観光まちづくりを進めます。

3 身近に農のあるまちづくり

町田市の農業が市民生活に不可欠なものとなるよう地産地消などを推進し、消費者と生産者の距離が近い都市農業のメリットを最大限にいかします。

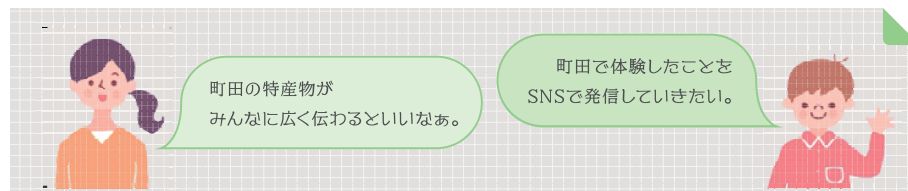
4 里山環境の活用と保全

東京都心から程近いという特徴をいかしながら、多様な主体が連携・協働し里山環境を活用することで、将来にわたって持続可能な保全の仕組みを構築します。

関係する町田市の計画

- まちだシティプロモーション基本計画22-26
- 町田市里山環境活用保全計画
- 町田市観光まちづくり基本方針
- 町田市都市づくりのマスタープラン
- 第4次町田市農業振興計画
- 第3次町田市環境マスタープラン

みんなの想い



胎児期・幼年期
(0～5歳)

少年期
(6～18歳)

青壮年期
(19～44歳)

中年期
(45～64歳)

高年期
(65歳～)

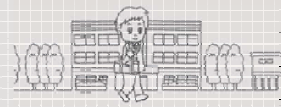
政策 /

4

いくつになっても自分の 楽しみが見つかるまちになる



人生100年時代において、中年期はまだ人生の折り返し地点を過ぎたあたりです。今のキャリアを成熟させるとともに、現段階からセカンドキャリア*を見据えた学びや活動を始めることで、より充実した人生設計が可能となります。いくつになっても、打ち込めるものが見つけられるよう、生涯学習の支援や、スポーツ環境の充実などを図っていきます。



POLICY

政策実現によってなりたい姿

仕事や家庭からはなれても、地域で学習やスポーツに触れる機会があり、暮らしを豊かにできる居場所があります。

政策実現にあたって意識する指標



現状と課題

高齢者の担う社会的な役割が多様化している中、セカンドキャリアを見据え、いつでもどこでも学びやすい環境づくりや、元気な体を維持していくことなどが求められています。

政策に紐づく施策

施策4-1

生涯にわたる学習の「しやすい」を支援する

施策4-2

スポーツへの参加機会を充実させる



施策 4-1



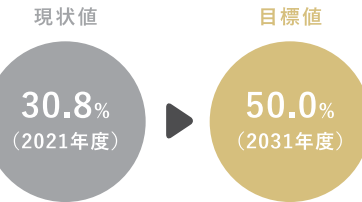
生涯にわたる学習の「しやすい」を支援する

施策実現によってなりたい姿

- いつでもどこでも学習しやすい環境が整い、学びの機会を逃さないようになっています。
- 学びの成果を発信しやすく、受信しやすいようになっています。
- 学習資源のデジタル化が進むことにより、学びにアクセスしやすい環境になります。

なりたい姿の実現度を測る指標

生涯学習活動を行う機会を持つことができた市民の割合



現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 国は、多様な学習機会の提供、学習した成果が適切に評価され、それをいかして様々な分野で活動できるようにするための仕組みづくりに取り組んでいます。
- 国は、超高齢社会への対応として、職業に必要な知識やスキルを生涯通じて身に付けるための社会人の学び直しを推進しています。

【町田市の現状・課題】

- 生涯学習に関する意識調査によると、学びの機会やきっかけを失っている現状がある一方で、習得した

知識や技能を他者のためにいかすことに対するニーズがあります。そのため、多様な学びの機会や場所の創出、学習成果をいかす機会の充実が課題です。

- 必要とする知識や技能を身につける上での情報の入手先はインターネットが多く、それを活用した、学びの提供も課題です。

【今後予想される課題】

- コロナ禍を契機に新たな生活様式が求められることに伴い、ICTを活用するなどして、新しい学びの環境を整えていく必要があります。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 学びに出会う機会の充実

市民が身近な場所で学習に触れる機会として、地域の公共施設などで、関係機関と連携したイベントや講座を行います。

また、様々なライフスタイルの市民が学べるよう、電子書籍サービス、歴史・文化資源などのデジタル化を行い、いつでもどこでも学ぶことができる環境づくりを推進します。

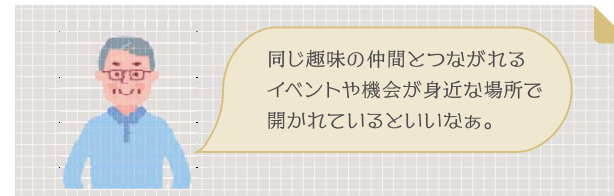
2 学習成果をいかす機会の充実

市民が学んだ成果をいかして地域の中で活動できるよう、必要な知識や技能を習得できる機会を提供します。また、市民同士の学び合いの輪を広げるため、学びを深めた人たちが地域で活動することを支援します。

関係する町田市の計画

- 町田市教育プラン2019-2023
- 町田市生涯学習推進計画2019-2023

みんなの想い



施策 4-2



スポーツへの参加機会を充実させる

施策実現によってなりたい姿

- 「スポーツで人とまちが一つになる」を実現しています。
- 市民誰もがスポーツを楽しむことができ、スポーツを通じて様々な主体が連携して、まちの賑わいと魅力が生まれ、市民の愛着・誇りが高まっています。

なりたい姿の実現度を測る指標



現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 大規模な国際的スポーツイベントのレガシー*を都民のスポーツ振興に活用し、多様な主体の自主的・恒常的なスポーツ活動を定着させることが必要です。

【町田市の現状・課題】

- 30代・40代のスポーツ実施率が低いことなどを踏まえ、ライフステージに応じた取り組みなどにより、スポーツ実施率の向上を図ることが必要です。

- 多摩26市で比較すると、市の人口に対してスポーツ施設の数が少ないため、市民の生活に身近なスポーツ環境の整備が必要です。

【今後予想される課題】

- 健康志向の高まりにより、機会があればスポーツを実施したいと考える人の増加が見込まれます。
- 運動やスポーツに苦手意識を持った子どもに対応することが求められます。



なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 スポーツに親しむきっかけづくり

市民誰もが、いつでもどこでもスポーツに参加できるよう、スポーツに親しむきっかけを充実させます。

2 スポーツに関わる人材と組織の充実

スポーツ関係団体をはじめ、町内会・自治会などとも組織間の情報共有や協働を推進し、スポーツを支える人材と組織を充実させます。

3 スポーツ環境の充実

市民が生活に身近な場所でスポーツに親しむことができるよう、「する」と「みる」視点から、スポーツ環境の充実に取り組み、市民の行動の変化を促すとともに、行動を継続したくなる環境の整備に取り組みます。

4 スポーツを通じたまちづくり

トップスポーツチームを擁する町田市ならではの魅力を活用し、地域の活性化、まちの魅力向上に取り組みます。また、市民的確にスポーツ情報を提供していくとともに、市内外にスポーツイベントなどの情報を発信します。

関係する町田市の計画

- 町田市スポーツ推進計画19-28

みんなの想い

一緒にスポーツする仲間を作って、輪を広げたいなあ。

